

り長く體の中に保有される状態があります。これは非常に他の人に迷惑であります。これは一方におきまして糞便検査を勵行して、その人が病氣でなかつても、病原體を持つてゐるかどうかが糞便検査によつて發見される、さうしたら適當な特效薬がありますから、これを用ひて全治して貰はねばならぬのであります。

(ホ) カラ・アザール

もう一つ病氣として非常に妙な名前の病氣は「カラ・アザール」日本語では申しやうがありませんから、やはり「カラ・アザール」といふて居ります。この病氣の本場は印度であります。印度のベンガルの北、アッサムの土地が「カラ・アザール」の原産地であります。あそこは御存じの藥を栽培する農業が非常に盛んであります。その農夫がこの病氣に罹る、これの傳播にはブドみたいな大きさの蠅があります。それが血を吸つて他の人に傳播する。この病氣がアッサムの土地に、今から七、八十年前に非常な流行をしました。そのためにアッサムの農民はこの土地を駄目だと言つて引揚げたので、茶園は荒廢に歸したと言はれました。そうしてその當時はこの病氣に百人罹ると九十人迄は死ぬ、死亡率九十%の病氣でありました。これが今から三十年程前に、アンチモン製劑を用ひて治ることが發見されました。今日では百人病氣に罹つても九十人まで治る、即ち治癒率九十%になつてをります。この點は非常に有難いのであります。この病氣は印度のアッサム地方だけではありません。中支にもあり、また北支の山東省にかけてもあります。このためにこの方に行かれた日本の兵士の中に、これに感染し、場合によつては不幸な運命に遭つた人もあります。一時は治つたが、家に歸つて来て又再發することがあります。これも特效薬がありますが、かなり長にかゝります。これを治療する前にまづ診斷することが必要であります。今日の醫者はその方法を知つてをります。こ

の診斷の方法は、一寸慘酷に思はれるかも知れませんが、胸骨といふ骨があります、そこに穴を明けて、骨髓をとつて顯微鏡にかけてこの原虫の存在を知るのであります、極めて雑作ないことでもあります(笑聲)。甚いことをすると思はれるかも知れませんが、その人を診斷するには、少々痛い位は我慢して貰はねばなりません。

(ハ) コレラ及びペスト

次にコレラおよびペストであります。今後南方に含まれるであらうところの印度は、コレラおよびペストの世界的原産地であります。然しコレラは大正十三年以後日本には殆ど來ません。支那方面から似島の検査所までは來るのであります、あそこで堰止めてしまひます。それ以上は入れません。ペストは日本には殆ど入つて來ない、今日では一つも來ないといつてよいでせう。これにつきましては詳しいことをお話ししたいが、ゆつくりしてゐる時間がありませんが、實はペストおよびコレラを豫防することに最も重大なことは検査であります。病原體發見以前のずつと昔から検査といふことは喧ましく言はれて居りました。ところが病原體が發見されない前では見當外れで、何が何んだか判りませぬ。病原體が如何なる徑路を経て傳播するのか明かにならないと本當の検査が出來ませぬ。これが今日は判つてをります。そのために國際會議を數回開いて検査に關する立派な國際條約が出來ました。日本もこの國際條約に加入してをります。然し今はそんなことも言つてをれませんが、國際條約勿論、御存じの國際聯盟といふものは今は何處へ行つたか判りませんが、この國際聯盟がその機能を完全に行ひ得た時代には、國際聯盟のスイツルのゼネヴァの本部の分局をシンガポールに開いて、これをイースタン・ピュトロロー、東方事務局といつて、熱帶的病氣の防疫を取扱ふ事務局がありました。そこでコレラ、特にペストは、御存じの人間の病氣ではありません、鼠の黴菌から人

間に傳播するのでありますから、この病氣がどこかに發生したならば、國際條約に加入してゐる當該國から電信をもつてシンガポールの東方事務局に知らせる、それを事務局から、ナウエンの國際無線を経由して「ヂュネーブ」に知らせる、そうして全世界に知らせる。また一方シンガポールではその趣きを西貢の放送局を経て、今日言ふ南方の海面に浮んでゐる船、および港灣に放送で知らせてをつたのであります。こういう検査に關します國際的機關が備はつてをつたのであります。これはこの間まで、日本が國際聯盟を脱退しましても、この條約だけに猶ほ加入してをつたのであります。この東方事務局の人間は今何處へ行つたか判りません。その事務局は日本の陸軍が接收してゐますがこれから先は、廣い南方において、コレダ、ペストといふことだけを考へましても、今迄國際聯盟華やかなりし時代において行はれてをつたことを、日本人の力で検査のことを司らねばならぬのであります。新秩序とか何んとか言ひますが、新秩序の最初のものは何かと申しますれば、即ち衛生的秩序であるといふことは、私共の我田引水論ではありますまい。この重大な任務は、日本人にやつてもらはねばなりません。

#### (ト) 腸チブス

次ぎは腸チブスについてお話します。腸チブスは熱帯病ではありません。けれどもこれも注意されねばならぬことでもあります。皆さんこれから向ふに行かれると、一人ではありますまい、多數の人を率ゐて行かれる、その率ゐて行かれる人々は日本人であることを忘れられてはなりません。自分さへ宜ければ宜いといふことではいかぬ。或る會社或る工場を造るといふだけではいけません。向ふで働く人間は勿論のこと、その土地の人間——原住の土民をも一視同仁の心をもつて臨んで貰はねばなりませんし、その土地で衛生設備を怠つたために目に見えぬ損がどれだけあるか

知れないのであります。〇〇島で、或る會社に、いくら衛生設備をしないといつても、會社側の人は金が要るからといつて怠つてをつた、ところがそこに行つて働く日本の移民で、そんなことに無頓着でをつたために、腸チブスが蔓延し、そのため幾多の生靈を苦しめた實に悲惨なことがあつたとのことであります。諸君は正しくそういう人を率ゐられる任務に着かれる人と思ひます。故に必ず醫者の命ずることを聞いて下さい。決して一會社のためのみではありません、名古屋だけのためではありません、日本人だけのためのみでもありません。

#### (チ) 各種寄生蟲病

次ぎに重大なのは寄生蟲の問題であります。寄生蟲のことは少々自分で心得てをりましたが、或は寄生蟲にお腹の中で美味しいものを食べられてしまつて、御自身は貧血に罹つてをられても、病氣でないと思つてをられる人が澤山あります。そのために能力、體力が衰へ、生産力を阻み、非常な損害を受けてゐる例が澤山あります。この寄生蟲の病氣にも色々の種類が、熱帯にては極めて猖獗してをります。ところが今日寄生蟲に關する學問は非常に進歩して、寄生蟲の状態はどういふものか、何れの道を通つて人間に来るかといふこと、そして何いふ症狀を起すか、どの道によつてこの寄生蟲を體外に押出すかといふ様な研究が大體出來てゐます。唯氣をつけて醫者の方へ相談に行つて下さるか下さらぬかの問題であります。この點で諸君には思ひもよらぬ一つの事實があります、それはこうであります。一九〇五年アメリカのニューヨークの世界的富豪ロックフェラーがアメリカの南の洲において十二指腸虫の病氣の被害を見て、見るに忍びないで、百萬ドルの金を支出して、この寄生蟲の害を除いて呉れと言つて醫者に提供しました。その結果非常に見るべきものがあるために、その仕事を更に擴張して續けるため、一億ドルを提供して、ロッ

クフェラー財團なるものを作つたのであります。寄生虫病を世界的に除くといふために、ロツクフェラーは一億ドルを提供して、その一億ドルの生む利息の収入をもつて、今日の非常な大きな世界的仕事をしてをるロツクフェラー財團について、皆さんも御存じのところと思ひますが、そのもとは寄生虫、主として十二指腸虫の病氣であります。この點を思ひますれば、如何に寄生虫が熱帯地方において忽せにすべからざることかゞ、御想像下され得るであらう。

### (リ) 性病

もう一つ最後に性病に關することでありませぬ。今大きい聲で言へませんが、性病の豫防は何れの道をとるべきか御存じの筈であります。しかしこれからの南方移民は男だけで行つて下さいといふことは、當分は仕様がありませんが、必ず家庭を持つて下さることを切望するのであります。家庭を持たない日本人の南方進出はやがて御朱印船時代の日本人の南方進出と同じ結果であることを明らかに言ひたいのであります。必ず家庭を持つて貰はねばならぬ。もし家庭を持たないとすれば、神経衰弱といふ病氣に罹り、能率の上らぬことは勿論であります。のみならずこゝで、聲を小さくして言ふ、性病の憂は目の邊りに見えてゐると言つて宜しい。この性病の病原體の病原内の梅毒といふ病原體は何處で發見されたかと言ふと、一九〇三年から五年にかけて動物實驗の結果ドイツ人シャウチン、ホフマンの兩學者が發見した。實に世界的大發見をしました。この病原體發見からワスセルマンの反應を梅毒の診斷に應用されたのは一九〇六年で、續いて化學療法的藥品で病原體を體の中において殺す薬を研究して、成功したのがサルバルサンであります。もう一つ梅毒のと同じやうで區別の殆ど不可能といつてよいやうなスピロヘーターといふ病原體をも

つ特別の病氣、フランベジャといふのが、あの南方の到る所に行き渡つてをります。これもサルバルサンによつてサツパリ治るのであります。この南方において、眼に見える病氣が薬の注射によつて忽ち治ると言ふ程、他人の信頼を博するに都合のいゝものはありません。斯の如きことをこれから日本人がやらうと言ふことでありますが、これ以前に既に十何年前に、このサルバルサン發見者の一人である泰佐八郎博士が蘭印のジャバに行かれた時には、生神様が來たと言ふので、大變な歓迎を受けたことがあります。この病氣は内南洋にも外南洋にもザラにあるのであります。これは土人が跣足で歩くために、如何に足の皮が厚くても、何か怪我をするとフランベジャ菌が侵入する。それで南方に行つて日本精神を發揮するといふことで、跣足で歩いて貰つては困る。日本の國內では、小學校などでも、跣足でも大目に見てゐることを知つてゐますが、南方では跣足で歩かしては困ります。

### 三、結 び

こういふことで、將來の南方に行くには、今日迄に大體判つてゐる醫學の知識を眞面目に利用して下さるならば、さう大して恐れることはない筈であります。日本人の體質は、南方に對し、ヨーロッパ人より遙かに暑さに耐へ得る能力を持つてをる、この信念を養つて貰ひ、そして信念といひますが只の空信念でなしに、その信念を突き通し得るやうに、衛生上にも色々の注意をして貰はねばならず、また研究して行かねばなりませんと、こう思ふのであります。斯の如く、衛生上、南方に關しましては將來研究すべきことがまだ色々あります。故にこの研究をするには有機的な研究機關も必要であります。個々の學者だけが研究するよりも、有機的研究が必要である、これに關しましては財界の色々の御援助を仰がねばならぬ。決してわれわれは乞食ではありませんから、金を出して下さいとは申しませぬ。

然し相當の眼を以てこれを理解して下さることが必要であります。それはひいてはわれ／＼のためでなく日本國家のためであります。殊に工業都市としての名古屋人士は十分にその理解を持つて戴きたい。

丸二時間に亘りまして御静聴戴きまして誠に有難ふ御座いました。私の南方に對する醫學の話は十時間や二十時間では盡きませんが、豫定の時間を過ぎましたから、私の話はこれで終ることに致します。(拍手) —完!

## 南方に於ける地下資源

海外鑛業協會理事長  
工學博士

金子 恭 輔

### 一、序 論

私は只今奥野理事殿から御紹介を受けました金子でございます。私元來一學究であつたのであります。さうして一昨々年、その前の年の暮に海外鑛業協會といふものが設立されました、所謂南方と申しますか、その南方における拓務事業の一つとして鑛業を如何に進展さすべきか、といふことがその當時問題にされたのであります。私が老齡の爲に遊んでゐるからお前世話をやけといふことでマア理事長の職をしてゐるやうな譯であります。一學究でございます。して、私の知識は南方に行つて直接調査したのもございませぬ。たゞ私を援助してくれるところの相當の若い方々が集められた資料を御披露致しまして、諸君に何らかでも御参考に供し得られれば幸と存じます。演題は南方における地下資源といふのであります。私は南方といふ言葉を最近好んで使ふのであります。又皆さん方もそれに對してお聞き及びが多からうと思ひます。嘗つて吾輩の協會も南洋鑛業協會といふやうな名前にしようかといふ話があつたのであります。當時南方といふ問題は、われ／＼が何とか之を處理せねばならないといふことを以前から問題にしてゐたところでありましたし、時恰かも支那事變も既にオツ始まつてゐまして、非常に外交的に南洋といふ言葉が忌避されてゐましたから、海外と致しました。茲で一寸南洋といふ言葉に就て御説明申し上げますとヨーロッパでは南

太平洋のことを指してサウスシーと呼んだ人もあり、ドイツではズード・ゼトと呼んで居ります。併しそれはどういふ方面であるかはつきり分りませんでした。稍之を明らかに説明致しましたのが有名な西班牙の探險家のバルボア氏でありました。當時は中部アメリカの地峡、其の邊から太平洋を望んで *Mar del sur* (メール・デール・ズール) といふことを言つたのであります。之を日本で南洋と譯したのです。尤も支那にも南洋といふ言葉が古くからあるのであります。支那ではこの南洋といふ言葉は揚子江の南の方の沿岸地方を南洋と稱へたのであります。多少支那も含んでをるのでありませうが、兎に角支那の言葉によりますと、揚子江の南の方の海岸及びその附近の島嶼を南洋と稱してをります。我國では亞細亞の東南部に當る所の熱帯圈内に於ける大小無数の島々と之に密接せる半島上の諸方を含んだものを先づ南洋と言つてゐるやうであります。最近南方なる言葉が大分出て参りまして、私も實は南方と云ふ言葉を好んで使ふやうにして居りますが、矢張り日本からかう考へまして、南の方面で大小の島々並にそれを包んでゐると申しますか、沿つてゐると申しますか、沿岸の佛印であるとか、泰、ビルマであるとか、更に是は島ではなく一小大陸でありますが、濠洲を含めたものを南方と言ひたいと思ひます。従つて今日の話も佛印、泰、マレー、ビルマ、蘭印、濠洲等を引括めてその範圍における鑛産資源に付て申上げたいと思ひます。

## 二、南方鑛産資源に就て

まづ演題が地下資源となつてをりますから、地下資源の説明を申し上げます。これは少しく長くなりまして、お聞きになるのに御迷惑にならうと考へますが、兎に角さういふ演題でありますからこれを申し上げます。どこから始めたらいかと申しますとどうもハッキリしないのであります。私はどこへ行つても佛印から始めるのであります。

南方の進駐が佛印から始まりました。私の方の協會でも最近佛印に研究所を小さなものですが建設しつゝあります。地下資源も或は佛印から進駐が始まるのでないかといふやうな大なる抱負のもとに佛印から申し上げます。

### (イ) 佛領印度支那の鑛産資源

佛印は皆さんにも既に十分親しみが深い地下資源があるのであります。佛印第一の地下資源は燃料鑛物であります。即ちホンゲイ無煙炭であります。ホンゲイの無煙炭は、こゝの海岸の近くで露天堀でどん／＼堀り出してをるのであります。一九三七年の數字で申しますと八十八萬トン、約四百萬圓の價格を輸出してをります。これは大體日本に輸出されまして、さうして日本におきましてはこれをホンゲイ炭と稱して家庭用、その他に使つてをります。その埋藏量も二百億トンと稱へられてをります。半分に見積つても兎に角大したものです。このホンゲイの無煙炭程いゝ無煙炭はちよつと少いのであります。七千カロリから八千カロリありまして、之を佛印から持つて來られるといふことはわが國の幸ひであります。次に佛印における重要鑛物は鐵鑛なのであります。これは實はほんの微々たるものであります。臺灣拓植會社の經營に移りまして非常な進歩を致しました。マア三十萬トン位は直ぐ日本に持つて來ようといふところでしたが、色々の事情のためにその數に達してをりませんでした。僅か數年間の間にさういふ數字に達する迄發達して來たのであります。尙この佛印の鐵鑛につきましては、鐵の含有量は幾分マレーその他に比較しますと少いのであります。けれどもわが國の鑛石よりは勿論比率がよろしい。その上にマンガンも相當含んでをるものがあるのであります。最近におきましてその方面の採鑛をさかんにやつてをられます。まづ四％位のマンガンを含んでをるものが相當あるのであります。日本におきましてマンガンを含有する鐵鑛は朝鮮にありますので

朝鮮の日本製鐵所の如きは、精鍊において嘗つて八幡の製鐵所で少なりと雖も採鍊したといふくらゐで、マンガンを含んでゐる鑛石は貴いのであります。多少量は少いかも知れませんが、將來性を十分期待してよいのであります。その次ぎは亞鉛鑛であります。佛印の亞鉛鑛は東京州シヨージエン鑛山でフランス系印度支那鑛業冶金會社の稼行一九四〇年産額は六千八百八十一トンで製鍊は同社のカンエン冶金工場をやつてゐます。それからその次ぎの重要産物としましては錫であります。トンキン州のカオバン地方ピウアツク、ラオス州ナムパテーであつて、南北に分れ産額は一九三七年に北の方が六百三十三噸、南の方が九百四十四噸となつてをり、凡て鑛石のまゝ英領マレーへ送られ精鍊されてをります。次はマンガンであります。マンガンは前述の東京州カオバン地方とハノイの南の方海岸寄りのビン町附近に鐵と一緒に出てゐます。それからその次ぎはタングステンであります。これは錫の鑛石と一緒に出るのであります。所謂混合鑛でありますので、先程申し上げました錫を採掘してをります鑛山、例へていひますとピウアツクの錫採鑛會社、ウォルフラム採鑛會社とか、それから印度支那錫重石鑛山會社といふやうな諸會社で稼行、その年産額は二、三百トン位です。その次ぎは磷酸鹽であります。これは東京州と雲南國境のラオカイが非常に有望とされてゐます。既に戦前二、三の日本人會社が手をつけまして研究をしてをります。たゞあまりに顔を突つ込みましたものですから、その地方の人心を攪亂致しまして、どの會社もあまり仕事の方は進行してをらぬやうであります。非常に大きな鑛床であると云はれてをるのでありますから、これらの會社が、政府當局の御後援の下にそれぞれ周到なる計畫の下に採掘致しましたならば、相當多量の磷酸鹽が日本に持つて來られるだらうと考へてをるのであります。たゞ御承知のやうに佛印における鐵道と申しますのは、最近鐵道省から多數の方が行かれましたから改善される

でありませうが、従來はフランスの手によりまして、軌道も極めて狭く、或は鑛山地方のトロに匹敵するとも申すべき鐵道が敷いてありますので、海岸迄持つて來るのに骨が折れ、而も少量しか運べないだらうと思はれて居ります。しかしこれを日本人の手でやつたならば、三十萬トン位はどうか持つて來れようといふのですが、兎に角衰れた鐵道が敷いてありまして、現在は只それによるより外ないのであります。その次ぎは硅砂であります。この硅砂は日本に全部輸入されてをります。日本人が発見したといつていゝか、日本の商事會社が発見したといつていゝか、非常にいゝ鑛床があります。ガラス製造の材料になる。日本における工業ガラスの製造の原料となります。日本の硝子製品がヨーロッパに輸出されたのもこの佛印産の珪砂のお蔭を蒙つてゐます。産地はアロン灣、或は安南のカンフォアが主産地です。その他クロム鐵鑛がタンボアといふところから出るのであります。これは最近に日本人の手で採掘することになつてをります。約百五、六十萬トンの埋藏量があるといふことであります。その他金であるとか、アチモニー、それから石綿などがございます。それから石灰石でありますとか、セメント工業がハノイ及びハイフオンなどにございます。兎に角今日南方に日本人の手がますゝ伸びて行きます爲に、この頃では佛印といふものが眼中から段々薄くなりつゝあるのでないかと思はれるのである。成程、佛印といふのはこれまでフランス人が約四萬人位をつたのであります。安南人その他が千何百萬といふ數に上り、それに對して四萬人のフランス人が支配をしてをつたのであります。彼ら四萬人の佛人は所謂知識階級と稱して居ますが、我國で申しましたなら義務教育を終つた程度の人達であります。安南にも相當いゝフランスの大學もございりますが、それを出た人、又はフランスに留學した人などが相當に安南人中にをるのであります。しかしそれをみなベチャンコに押へつけてをりました。殊に日本に亡

命してをる安南人の如きは歸國を許さないのであります。こんなやうなことをして兎に角押さへに押さへつけ、さうして自分らは非常に高給を貪つて、夏は暑いからといつて山の上に避暑をしたりしてやつてをるから、十分調査が行届いてをらない情態でありまして、佛印の鑛業は非常に遅れてゐて、比較的開發された東京州を除いては殆んど未開發で今後本當に日本の手で採鑛調査が行はれるならば、どんな資源があるか分らないのです。

#### (ロ) 馬來の鑛産資源

次にマレーに移ります。これはわが國地下資源として最も密接重要な關係を持つてをるのであります。既に戦前に於て石原産業さん、日本鑛業さん、南洋鐵鑛さん及び飯塚鑛業さん等の諸會社が進出してゐたのであります。たゞ對日資産凍結によりまして一時殆んど引揚げた。さうして戦争によりましてお氣の毒なことでありましてけれども、何人かの殘留されたところの技術者および事務員が印度に連れて行かれて、いま以て行方不明であります。それで大體鐵鑛に付て申しますと、馬來の鐵鑛は全部日本に輸入されてゐました、その量を申し上げることは一寸差控へなければならぬかと思ひますけれども、もう一、二年前の數字は一寸申し上げて置きます。まづ一九四〇年にジョホール州スリメダン鑛山で石原産業さんが四十五萬トン、それからトレンガヌ州ケマン鑛山で石原さんが十八萬トン、それから日本鑛業さんがトレンガヌ州のツングン鑛山でこれは百一十一萬トンといふ數字を出してをります。その他ケラントアン州のテマンガン鑛山が南洋鐵鑛で二十七萬トン、その他飯塚鑛業さんの三十五萬トンで之はジョホール州ブキツト、ランカツプのエンドウ鑛山からであります。品位は五五・六%から六五・六%迄でございます。赤鐵鑛も多くございます。褐鐵鑛もございます。これを全部そのまゝ日本に輸入してをつたのであります。その次ぎのマレーの地下資

源としましては御承知の通り錫でございます。之が開發は遺憾ながら主としてイギリス人、アメリカ人の手によつて占められて了つてをつたのであります。曾つて一九一〇年時代におきましては、支那人が七八十%の開發權を掌握してゐたのであります。昨年、或は一昨年あたりになりますといふと英米が六十七%、支那人が三十三%といふやうな割合で開發の地位を占めて居りました。マレーの戦争はまるで日本の軍隊は錫を取りに進んで行つたかの如く、新聞でお読みになつたやうな順序で、北の方のペラクといふところが一番錫が澤山出るのであり、その次ぎはセランゴール、バハン、ネグリセンピランと、いづれも新聞でお読みになつた地方であります。製鍊所はピナンと昭南島にありまして、之等馬來の錫鑛は勿論、タイ國その他より鑛石を輸入して精鍊をしてをりますのであります。兎に角世界の全産額の五〇乃至六〇パーセントは南方に於て産出してゐるが、その半分以上を馬來で出して居ります。さうしてその錫の産地は一寸面白いことは大部分は西海岸にあり、コレノビア、ネグリベントンといふやうなところが全體の九割五分を出してをる、その中又九割はこのペラクで出してをる。それでそのペラクに次ぎましてのセランゴールであるとか、それからバハン、ネグリセムピランといふやうなものはつまるところ九割五分の中の一割といふやうな數字になつてをります。それが世界第二位のポリピケ及び蘭印とほぼ同じくらゐ出してをるのであります。産額が一九三八年に二萬四千九百五十八トンとなつてをります。大體マレーの錫は繰返して申しますやうに世界で有名でございますが、熱帯特有の強烈な日射と多量な雨により非常に風化作用を受けてをります。所謂ドレッツチャーのやうなものであるとか、水をかけなくても、水流しの採鑛によりまして採り出されるので非常に採り易いのであります。而も風化作用をうけてをりますので他の不純物が取去られてをります。それからこの精鍊所は先程申し上げました二ヶ

所で、所謂歐洲人が精鍊をしてをりますが、その他支那人、所謂華僑は東洋式な方法を用ひまして簡単な錫の精鍊をしてをります。これらはいづれも海外に輸出されてをりますが、ベナンの精鍊所にはイースタン・スメルティング會社、昭南島にはストレイド・トレイディング會社があります。昭南島の精鍊所を申し上げては憚りますが大分ブチ壞されてをります。ベナンの方は既に修繕にかゝつてをりますから、直ぐ仕事が日本の手で出来るのではないかと考へてをります。その他にマレーと致しましてはマンガン、ボーキサイトなどが採れます。マンガンは印度のマンガンに比べますと質が稍々劣つてをりますけれども、日本人の手によりまして日本鑛業さんがケラントン州タンドウ鑛山、石原産業さんがトレンガヌ州ケママン鑛山でやつてをられますが、品位五・三%のものがいづれも一萬トン位はお出しになつてをつたと思ひます。ボーキサイトは南の方に出ますので、この間新聞でお讀みになつたバトバハで石原産業さんが十五萬トン位掘る計畫をしてをられます。その他日本商社で既に同地方で開發計畫をしてをつたのもありますが、これ迄手を付けられなかつたのであります。その他石炭が僅か五十萬トンか、そこらと思ひましたが出てをります。尙タングステンも無論出るのであります。それからその他の鑛物もマレーには相當あるやうであります。これはお聞き及びの如く千古不滅のジャングル地帯とか恐ろしいヒルの妨害のために調査も進捗しないのであります。只今申上げた鐵、錫、マンガン、燐灰石、ボーキサイト、いづれも世界的で、又わが國にとりましても極めて重要な地下資源でございます。

#### (ハ) 泰の鑛産資源

次ぎに一寸上りましてタイに参りますが、タイはこの圖面でも御覽の如く(鑛産分布圖を示す)一向その地下資源が今日までわかつてゐないのであります。御承知の如く非常にジャングルも多く、マア象の上に乗つてヒョコノ旅行するやうな地方であります。これは行つた人からの聞き話で、私が直接行つて象に乗つたわけではありません。マレーの錫の精鍊所へ出します錫を相當出してをります。マア錫が何といつても多いのであります。それから金であります。金は非常にタイ國でも重要視しまして、今度金本位に改革されたやうであります。その以前から金といふものにいろ／＼注意を拂つてをります。産額もふへてをります。その他鐵が矢張りマレー國境近くで出ます。又それから石炭、タングステンなどもあらうといふことになつてをります。錫の主なる産地は馬來半島の細長、頸部に當る所であつて、ブケット・ナコン・ソクラー・ヤラー・ラチャブリの五地帯に分けられてあります。この中ブケット地帯は泰總産額の約七〇%を産出してゐます。泰の錫生産は殆んど英國資本でありまして、英系會社は五十を數へてゐます。尙この他にタイには石油が出るといふことで、大分前に日本に石油技師の派遣方を申込んで來たこともあつた。最近或る學者の調査の結果タイの北方に大油層を發見したといふことが書かれてありました。タイ國自身も石油に關しては相當研究を重ねてをります。先程申しました金は砂金であります。佛印でもさうであります。この邊の河にはいづれも砂金が採れるのであります。その大きさは一寸米粒位で、或はもう少し小さいかも知れません。その採掘も科學的方法を用ひたならば、もつと／＼産額はふへることは明らかでございます。

#### (ニ) ビルマの鑛産資源

その次ぎは一寸問題のビルマに入ります。ビルマは世界的な鑛産國であります。まづ石油に付て申しますと年額百萬トン、産油地方はビルマの西の方でありまして、マグイ地方のイエナンチャウン油田とか、北方のシンジャン地方の



シンドグ油田であるとか、ラニワ、イエナンジャ、インダウ、ミンブエー、バダウビン等の油田が南北に連つてをり、全部英米系資本で油田別産額はイエナンジャウンが最大で約四〇%の産油をしてをります。次ぎにはイギリスが寶庫と致してをりますボードウイン地方のボードウイン鑛山があります。鉛の世界的産地でこの鑛山には外に銅、ニッケル、亜鉛もそれ／＼産出し、殆んどビルマ・コーボレーシヨンの稼行になつてゐます。その他金銀も産出されますが、ビルマとして今日問題にされてをるのは重油、タングステンであります。タングステン鑛は支那に亞いで世界第二位を誇つて居りますが、主産地はダウオイ地方カレニ地方で殆んど産出してゐます。一九三七年の世界産額に對する比率は一四・一五%となつてゐます。序であります支那の産額は世界の五〇%を産出しますので、兩者を合して既に六四・一五%其他を合してみれば大東亞に於けるタングステンは實に心強い限りであります。

#### (ホ) 印度の鑛産資源

それから一寸印度の話になりますが、最近最も問題になつてをります印度は、鑛産上注意すべきものとしてその豊富なマンガンと鐵があります。マンガンは申すまでもなくソ聯に次いで第二位でありまして、産額は一九三一年には五〇萬トン、一九三八年には四十二萬トンとなつてをり、鐵鑛は約三百萬トン、製鐵も發達してをります。それから石炭も相當出てをります。これは製鐵の所謂原料炭となつてをります。其他金、銀、燐鑛、クローム、雲母及び食鹽等々多種であります、眞に英國のドル箱であつたといふことは容易に肯づかれませう。

#### (ハ) 比律賓の鑛産資源

それで印度を終りまして、フィリッピンに移ります。フィリッピンの地下資源は相當豊富であります。この地方の鑛業の發達は米國領となつてからのことで、アメリカの地下資源への力の入れ方も、アメリカの最も欲しいと思ふところのクローム鑛であるとか、マンガン鑛であるとかいふやうな、彼の有つてゐないものに入れた。それからその次ぎに力を入れたのは金であります。一九三九年金は三十九トンであります。それから四十年に三十八トン、銀は三十九年に五十四トン出てをるのであります。驚く勿れ、この數字は日本が産金奨励をやります前と匹敵する位出してゐるのであります。それからマンガン鑛の如きも、三十七年には二萬五千トンのものが三十八年には五萬八千トン、それから三十九年には又下つて二萬九千トン、四十年には五萬二千トンとなつてをります。この數字などは一寸面白い數字であります。アメリカは景氣不景氣によつて産出をコントロールするのであります。國の御都合によつて産額を増減せしめるといふことが、アメリカの必要な鑛石のマンガンとクロームに示されてをるのであります。これは私の想像も入つてをるかも知れません。それでわが國としましてはこのマンガン鑛であるとか、クローム鑛といふものはこれは是非必要なのであります。いま既に掘りに行つてをりますが、これらにつきましては、さういふやうな所謂自分の御都合主義といふことでなく、彼らの爲にも又自分のためにも開發するといふ風にしなければならぬと思つてゐます。話の序でに、餘談になるかも知れませんが、錫の問題におきまして、この錫などは矢張りイギリスがコントロールして、イギリスが世界中の生産額を考慮して、今年は何ぼ出せどは何ぼ出せといふことを命令してをるのであります。さういふことになつて、かういふ數字が出てをるのであります。銅はアメリカには十分あります。日本にとりましては極めて必要でありまして、選鑛して我國にも相當鑛石を持つて來てをりますが大部分はアメリカに持つて行つてをります。鐵鑛石は日本人が行つてはじめて開發したのであります。石原さん始めその他の會社

が進出して日本への移入も益々増加の傾向にあつたのでありますが、これも凍結令によつて對日輸出は禁止になつたのであります。日本が最も關心をもつてをります銅は鑛石としまして年産五萬トン、これはみなアメリカへ持つて行つて精鍊してをります。主要な鑛山はマウンテン州のレバント銅鑛山、アルバー州のラブラブ鑛山、ネグロス島の鑛山、これらは各米系のレバント・コンソリデーテッド會社、ヒツキスパー・ゴールド鑛山會社、サンレミヒオ鑛山會社などがやつてをります。次に鐵の主要産地はカマリネス・ノルテ州のララツブ鑛山及びサマール島のサマール鑛山、マリンドケ島のマリンドケ鑛山であります。何れもこれは品位六十%内外の高品位でありまして、日本に全部持つて來てをつたのであります。最近には合計して百萬トンを超へる迄に至つてゐたのであります。クロムは最近隆々と頭角を現はして來た比島の鑛業で主要鑛山がマニラの北部、ザムバレスに集中してゐまして、それらはアコヘ鑛山、フィリツピナス鑛山、マシシロツク鑛山、ザムバレス鑛山等でありまして、約四十五%位のクロムの含有量であります。それからマンガンはパラワン州のブスアング島、ネグロス島の南端のシキホール、その東部のポホール島などでありまして、これらは日本に極く少量供給してゐたのであります。資金凍結になつてもヒイリツピン當局が鑛ならば日本に持つて行つてもよろしいといふ譯で、アメリカで使へないやうな非常に悪いマンガンを僅かばかり日本に輸出許可をしたのでありますが、それでも日本がもつて來やうとしたものですから、慌てゝ貧マンガンを輸出禁止をしたやうなこともありました。

#### (ト) 蘭印の鑛産資源

次ぎは蘭印であります、蘭印は何と申しましても石油と錫であります。又ボーキサイトもあります。そこで蘭印

が大體鑛産資源の開発にどういふ風な方針でやつて來たかと申しますと、申すまでもなく、最も人口の多いジャバに於きましてまづ鑛産資源の開発をしてをります。それから同時に相當鑛産資源の多いスマトラに力を入れた譯であります。従つて私どもの手にはスマトラとジャバの資料が入つてをりますが、他の地方はあるかも知れません。或は又向ふでも秘密にしてゐるのかも知れませんが、事實調査も行なはれてはゐないと思ひます。従つて鑛産物はスマトラに集中されてをりまして、その次ぎはボルネオであります。しかも海岸線に沿ふて開發がされてをる。それから次ぎに開發したのがセレベスであります。セレベスはオランダ人は殆んど手を付けてをらないのであります。従つてここには何らの調査も行はれなかつたのであります。これは戦前日本の優秀なる技術者が日本から行きまして、ゴムであるとか、ニツケルを開發したのであります。それからニューギニヤに至つてはジャバ、スマトラの地質と異つて調査が不十分であります。それは殆んど手を付けてをりませんので、將來どういふ鑛産資源を發見し得るかかわらないのであります。一昨々年でありましたか、南洋廳から派遣された人々が現地視察を許可されて視察に赴いたことがありましたが、一行の一擧手一投足まで監視抑束されて、兎に角一週間か二週間の間といふものは憲兵さんに鐵砲を突きつけられてばかり歩かされたのださうであります。そんなやうなことで、此迄日本人が行つて開發をしたいと思つてゐても、それが行はれなかつたのであります。それでオランダは今日迄大體さういふやうなやり方で、將來東亞共榮圏の一環として之が開發には非常な努力を要する方面であります。大體に於きまして、石油は御承知のやうにバレンバンであるとか、或はジャムビーであるとか、バタビヤ、スマラン、それから例の蘭領のボルネオのバリツクパン、それからセラム、ミリーといふものが産地でありまして、わが國と最も關係の深いタラカン島にも油田があり

ます。この油田に注意すべきは殆んど重油質であることで、わが國の船舶に寄與する所多大でありました。大體これらを合併致しましてまづ英領に百萬トン、それから蘭領で八百萬トン、合計九百萬トンであります。今少し詳しく申し上げますと、一九四〇年にスマトラに五百二十萬八千七百トン、ボルネオが百七十九萬三千二百トン、ジャバが八十三萬九千四百トン、セラムが九萬七千トン、これをパーセンテージで申しますと、スマトラが六三%、ボルネオが二三・二%、ジャバが一一・六%、セラムが一・二%であります。その個々の油田を説明しますと、スマトラ島の南部の落下傘部隊の降下で有名なバレンバン大油田であります。はじめて出油したのが一八九八年で産額三九九年に三百十二萬五千トン、蘭印で斷然頭角を抜く大油田であります。こゝには一日五千トンの大製油所がございます。此の油田に連つて一寸北部にジャムビー油田といふのがあります。ジャムビーは産額百二十一萬一千トン、出油は一九二二年の新しい油田でこゝにも製油所があります。バレンバンと共に航空機用のガソリンを製造してをります。スマトラには北東部にも油田がありまして、出油は一八九〇年産額九十八萬四千トンで、これはオクタン價が非常に高くガリソン分が最も多いといふことでありまして、將來注意を要すべき所であります。それから、その他先程申し上げましたタラカンの油田でありますが、出油は一九〇六年産額六十八萬四千トンとなつてをります。この油田に注意すべきは殆んど重油質であることと、日本へ入つてゐたといふことであります。この他ボルネオの南の方にサンガサンガといふ油田があります。これは一名バリツクバパン油田とも申しまして出油が一九〇三年産額九十九萬七千トンであります。これは一日五千トン位の出油量があります。まづさういふやうなことを詳しく申し述べますといふと却々限りがございます。錫を申し上げます。錫は御承知の通り主産地はベンカ、ピリトン、シンケツブ島であります。バ

ンカは御承知のやうにベンカ錫と稱して、世界で最も良質の錫を出してをります。これは鑿識法でやつてをるのであります。それからピリトン島には精鍊所があります。又シンケツブ島は海中錫の産出で有名でありまして、陸上錫と半々の生産であります。それからボーキサイトはこのピンダン島——マレーに近いのであります。多分蘭領だと思ひます——とその隣りのボタン島に産出して居ります。このボーキサイトは日本にも約五萬トン許り入つてをりました。そのほか石炭はスマトラ島が主産地であります。蘭印の石炭は埋藏量十億噸以上とされてゐますが、粘結性に乏しいのは遺憾であります。ボルネオにも石炭は産出されるのであります。これは多分いま日本の方で手を筈にかゝつたかと思ひます。大體に於きまして質があまりよくないといふことで、懸念されてをります。その他鐵鑛は蘭印の各地に廣範圍に分布し、總量は十五億噸以上と云はれますが、未だ開發の域に至つてゐません。之は何に原因してゐるかと思ふと、品位が低く異物質の混入多いことの鐵自身の劣性に依ることと、他面交通の不便、市場等の關係が支障を爲してゐると思はれます。その次にニツケルであります。ニツケルはセレベスの眞中に湖水があるのであります。その周圍に著しく出てをります。これは日本の南洋鑛業あたりが主として手をつけてやつてをります。その他マングァンがこのジャワに産出されてをります。

#### (チ) 濠洲の鑛産資源

それから濠洲のことを一寸申し述べます。濠洲には製鐵所もありますし、それから銅及び鉛の精鍊所もございませぬ。その數字はそこに出してありますが(圖表を示す)詰るところ——濠洲は一寸圖面がありませんからわかりませんが——南の方にタスマニアといふ島がありますが、鉛を出してをります。製鐵所もありますし、亞鉛もそこから出して

をります。濠洲は何故にさういふ精鍊所が出来たかと申しますと、矢張り石炭が六百萬トン——確かさうだと思ひますが——その意味に於いて非常に精鍊業が発達して來てをるやうであります。その他鑛石としても相當あります。それから濠洲の先きに、御承知のやうにニューカレドニアといふフランス領の島があります。これは世界における第二のニッケル鑛の産地として有名で、或はニッケル鑛石のまゝ、或はそれを半製品とし、ニッケル硫化物として世界に供出してをるのであります。この島には日本が戦前開發に着手しまして、既に數萬トンの鐵鑛を持つて來てをるのであります。さうして三十萬トン位の鐵鑛を採掘する計畫をしたのであります。資産凍結によりニューカレドニアといふ會社でありましたが引揚げて來てをります。その他クロームの鑛石についてもオセアニアといふ日本の會社であります。それが開發の計畫をしてをります。我國の太平洋制覇により之等の鑛産物が軍需資源確保の上に重大なる役割を演ずることは十分期待してよいと思ひます。

### 三、南方圏の重要資源

大體鑛産物のお聞き苦しい數字をデカ／＼と駈足で述べたのでありますが、少しこれについて私の考へを述べさして頂きます。南方圏の鑛産資源の重要性については何も私の所懐を述べるまでもないと思ふのであります。やゝ具體的にこれを申し述べてみますと、何と申しましたも、日本と最も關係の深い鑛物と致しましては鐵と石油と錫、次は金であります。これらについて少し所見を述べてみたいと思ひます。

鐵に對しましては、最近海南島におきまして非常にいゝ鐵鑛が天祐的に發見されたのであります。これはこれ迄文献にも載つてをらなかつたのであります。マア天祐と申すべきであります。しかも非常に多量で、その上良質であります。そこで嘗つて南方を封鎖された當時におきましては海南島を確保したからいゝぢやないかと言つてゐた人がありますが、しかしながら海南島を開發するには先程も申上げるやうに、天祐的に發見されたのでありますから、それを開發して行くのに相當時日を要するのであります。御承知の通り港も造らねばならぬ、場合によりまして年に千萬トンの鑛石を出さうといふやうな考へから廣軌の鐵道を敷設する、さうすると廣軌の貨車は日本の所屬におきましては滿洲とか朝鮮にはございますが内地では使用してゐないから、それをつくらねばならぬといふやうなことになりますから、これは一寸強がり結構であります。幸ひにしてこの曠古の大勝が南方から直ちに鐵鑛を持つて來られます——いま迄は資産凍結によつて持つて來れなかつた——鐵鑛をどん／＼持つて來るといふことが必要なのであります。又將來において海南島が開發された時でも、南方を捨てゝ了ふ、私はさうは考へないのであります。今日、日本に貯藏されてゐる鐵の數量は幾何かは知りませんが、兎も角極端な話であります。アメリカにおいては恐らくこの頃は一億トン近くの鐵を産出してをるのでないか、と想像してをる人もあるのであります。ドイツにおきましても四千萬トン以上は出してをりませう。今日ではロシアでも二千萬トン近く、或はそれ以上出してをりませう。たゞイギリスが嘗つて三千萬トン近く産出してをりましたが、今日では半分か或はそれ以下になつたかも知れません。斯様な事情に徴してわが國としては東亞の大きな天地を考へました時には、海南島の一千萬トンの鑛石などはほんの僅かなものであります。將來におきましては、もつと／＼製鐵業を日本でもつて興す、それに要する鑛石をどん／＼持つて來て頂きたい。それから石油につきましては、これは申す迄もなく東亞共榮圏において賄ふ爲には全部いま迄買つたものは必要でありませうし、大體におきまして日本にはこの蘭印の石油は從來は來て

のなかつた。何故来てゐなかつたと申しますと、日本ではアメリカから重油をとつて来て安く製油する。安く石油をつくる。蘭印の石油は日本の石油より高い、尤もアメリカの石油は日本の石油より高いのであります。世界で日本は當時一番安かつた。蘭印からはガソリンとして日本が買つてくる。昭南島その他の島々が高い精鍊費でつくつた高い石油を又高く賣つて金儲けをしてゐたのです。それですからこれは將來におきまして、日本の領域において、低價で供給せねばならぬ、又安く出来ませう。しかもそれはもつと量が必要とされるであります。併し是は中華民国、比律賓、泰にも石油の兆候があります。日本に於いてもまだ兆候が澤山あります。近くは千葉の海の中から石油が湧き出したと云ふことも言はれた事がありますから、何も陸地ばかりで探らなくても越後の柏崎の如きは海の中から掘つてをりますから、海から掘り出せばまだ出ると思ひます。それから御承知の如く滿洲でも内地でも人造石油が出来てをりますが、これは航空機用としては天然産のガソリンのみでは間に合はないのであります。南洋をとつたから、それが直ぐ飛行機用になつて、人造石油は要らないといふやうなことは非常に間違つた議論であります。ドイツにおきましても人造石油によりまして今日あれだけの成果を得てをるのであります。日本は幸ひにして相手が弱いから、又日本の兵隊が極端に強いことによりまして、まづ左程の人造石油が無くとも今日の大勝を得てをりますが、恐らく、假りに世界大戦が終りましても今後は軍備擴張はどこまでもやるのであります。平和が来れば来る程軍備擴張はやるのでないか、私はさう思ふのであります。その爲には何としてもこの石油問題についてもつと眞剣に考へねばならないのであります。それから錫についてであります。最近錫が餘つたらどうするかといふことも聞きますが、これは私の考へる所では錫は無くてはならないのであります。御承知の如く錫はアルミの仲間でありま

す。よく溶け易い、加工がし易いのであります。鑄造が出来易い、又粘性も有つてをります。かういふやうな金属は鉛とか、或は貴金属とかいふやうなものならばあるのでございますが、一寸多量生産しますところの鐵で代へる譯にいきませんし、アルミニウムで代へる譯にもいきませんと思ひます。従つてアメリカの如きは今日之れが代用品を一生懸命研究してをるかと思ひますが、却々至難な問題だらうと思ひます。それですからこれは今日うんと掘つて置く、うんと造つて置かねばならない、さうしてこれは恰かも金を本位にして兌換したやうに、或部分の兌換紙幣は錫本位を以て兌換するとか、或は或る地方の兌換は錫でやるといふ原則をつくり、東亞における錫で出来たものは大部分その地方に持つて行つて、さうしてその地方で兌換する。或は日本は金貨本位であるから金は全部日本に持つて来て日本の圓をつくるといふやうなことは一つの方法ではないかと思ふのであります。又先程申しましたやうに、戦争が済んでもまだ軍備擴張される、それには錫を要する。その時はアメリカに相當高く賣つてやつたらいいぢやないか、たゞこゝに問題なのは銅とマンガンであります。銅とマンガンにつきましては、これは私人の考へであります。銅は或は他のもので代用されやせんかといふやうな研究をもつと日本でやつて頂きたい。尙銅ももつとつと採れるでせう。マンガンはこれ迄は相當潤澤に費つてをつたやうでありますけれども、もつと節約が出来ることないかといふやうな氣がするのであります。しかし幸ひにして東亞共榮圏内におきましてマンガンを有つてをることには幸福なことであります。それから金の問題は詳細な説明を致しませんが、フィリッピンにおいて申し上げたやうに金は矢張り相當必要なのでないか、金に代るべきものは、他の金属には何もないのであります。金はヤスリで削るとか、ナイフで削るとかしたらへるけれども、それでなければ錆びる譯でございせんし、形は變るが目方は變らない、

かういふ金屬は他にございませぬ。又これ程いゝ色をした裝飾品は他にありません。成程白金は金屬であります。銀も金屬であります。金と白金と銀と較べましたならば、値段の上から白金は珍重されるかも知れませんが、マア素人は金を珍重します。

兎に角この地下の鑛物の重要性はいろ／＼考へられるだらうと思ひます。しかしして重要資源の問題で付け加へて置きますが、東亞において大體どんなやうな地下資源があるかと申しますと、順序不同であります。金、銀、油、錫、鐵、パラジウム、石炭、燐、タングステン、亞鉛、アルミニウムの原鑛、ボーキサイト、クローム、マンガン、銅、鉛、ニッケル、コバルト、アンチモニー、硫黄、スタニウム、水銀等の鑛石、それから垂石、石墨、螢石、石棉、硼砂、加里鹽、沃度、硅砂、雲母、水素、それから極く少量のものとしては水銀、白金、モリブデン、石膏などが今日知られてをるところの産物でございます。

#### 四、日滿支と南方資源の關係

その次ぎに一體南方資源はさういふ風に世界的であり、われ／＼東亞民族として必要であるが、この日滿支の資源と南方資源との關係はどうかといふことについて一言私の所見を述べさせて頂きます。無論日滿支はわが國における最も親しいところの同盟國であります。従つてその地方がお互ひに協力して、その地下資源を開發することが大切であります。またお互ひに助け合つて、さうして自給自足しなければならぬといふことも考へられるのであります。しかし自給自足といふことが何であるかといふことを考へて見ると、その考方には色々ありませうが、仙人が何か松鱈を食べ水さへ飲んでをれば自給自足で一生生きて居られる、さういふことを考へればどういふ自給自足も出来る、

我國は資材が不足して居りますが、一體資材と云ふものは何處迄あつたら十分なのか、或は何處から以下が不足なのかといふことになりまずと先程の仙人の水といふやうな議論になつて分らないのであります。昭和十年に人口一人あたり鐵の使用量がアメリカが一人あたり一九八キロ、ドイツが一五四キロ、イギリスが一四二キロ、ベルギーが一八二キロ、フランスが七六キロ、日本が四八キロといふやうなことで、僅かアメリカの四分の一しか使つてをらないのであります。しかしそれでもアメリカ人と較べをしてゐた。それですから、この自給自足の考へ方にはいろ／＼あります。又如何に國家資源が少くても勝てるのであります。勝たなければならぬ。又資源が少くつてもより以上のことをしなければならぬ。それですから自給自足には考へ方もありますが、マア兎も角、われ／＼が世界一にならうと思ふならばこの日滿支、及び東亞全體の地下資源を大いに活用しなければならぬ。その時の活用の順序と致しまして、この日滿支と南方との關係が密になつて來るのであります。幸ひにしてわが國の盟邦である滿洲でも、或は中華民國でも相當に海岸線を有つてをりますことは非常に結構なことでありませぬ。といふことは、海岸線を通じたならば、この經濟圏に鐵道を敷かなくつてもお互ひの交通も出來、協力も出來るのであります。海岸線もない、鐵道もない重慶の如きは何ら他と協力は出來ないので、ビルマルートによつて協力をするといつても、こんなものは問題でない。そこでこの南方における島嶼はいづれも海岸線を有つてをりますから、私はこの海岸線にまづ有利な點を認めることが出来るのでないかと思ひます。従つてこれらの地方におきましてのいろ／＼な開發よりも、この南方の開発の方がし易いのでないかと思ふのであります。さうしてお互ひに協力がし易いのであります。勿論この海岸から離れた山奥の方の鐵が必要なら、この海岸から鐵道をもつてをらなければならぬが、山奥の鐵を持つて來るよりも、

この海岸線から持つて来た方がいゝ、銅が必要なら、銅も山奥から持つて来るより海岸線から持つて来た方がいゝ、こゝにおきまして、支那や滿洲の奥地の方にもこの海岸線によるところの資源によつて恩恵を蒙られればいゝぢやないかと私は考へるのであります。それなればどこにこれの南方におけるところの鑛物資源、地下地源の精鍊所をたてるかと申しますといふとこれはわが國が一番いゝのであります。又わが國の中に精鍊所の大部分を置くべきであると思ふ。例へば三千萬トンの銑鐵を必要とするならばその半分、少くも三分一、一千萬トン或は一千万五萬トンの製鍊所はわが國の中に置かなければならぬ。兎に角大體まあ二分の一を日本でつくり、その四分の一を滿洲、支那でつくり、残りの四分一をこの廣い共榮圈内にわけてやらうぢやないか、そこらは需要も少いのでありますから、その位でいゝぢやないか、さうして鑛石としては日本の内地のどこに精鍊所をたゞても、日本内地は海岸線が長いのでありますから、鐵道では相當距離がありますけれども、船を使へば何でもないのであります。内地のどこに精鍊所をたゞても結構です。北海道とか、臺灣とか、九州とか、東京とか、大阪とか、名古屋とか兎に角バラ／＼にこしらへたなら、日本内地の立地問題におきまして、需要がどうであるとか、原料がどうであるとか、といふやうなことは大東亞の資源開發といふ大きな觀點から云へば今日では問題でないやうに私は考へるのであります。

その次ぎに南方資源における資材および人的資源について申し述べます。わが國は資材が少いのであります。しかしこの少いといふことも、それは先程例を申し上げましたやうに、鐵の使ひ方が尠くとも外國人と伍して行つたのであります。それを皆さんがわが國は資材が尠いのだ、資材が尠いから何も出来ない、西洋人に大刀打は出来ないといふ議論は絶對やめて頂きたいと思ふのであります。これは仕方がない、尠ければ尠い程その資材の利用方法を考へな

ければならない。鐵の代りに南方の堅い木を使つたらどうか、或は竹を使つたらどうか、鐵筋の代りにこの頃竹筋といふやうなものがあるのであります。かやうに考へればまだ／＼資材は澤山あるのであります。それで兎にも角にも資材といふものはないものはしようがない、しかし南方を開發すれば資材において何らの危険はない。世界中で一番資材の豊富な國になるにはこゝ暫らくの間であります。ですからこゝ暫らくの間ひとつ辛抱して、一の資材を十に使はふ、十の資材を百に使はふといふやうにして行きなすつたならば、私は必ず南方開發が出来るのではないかと思ひます。

それから人的資源の問題であります。これについてはいろいろの議論があるのであります。一體南方へ行くともみんな人間が墮落すると云ふがさう云ふことを誰が研究したか、僅か半年やそこら南洋を視察して何等の根據なしにそういふ事を云ふのは輕率であると思ふ。何十年か蘭印につたとか、佛印につたとかといふ人とお會ひになりました、あなた方があの人は三十年佛印につたとから低脳になつたナといふ方にお會ひになつた方は一寸少なからうと思ひます。労働者の問題も私はさうだと思ひます。従業員の問題もさうだと思ひます。これは要するに頭が悪くなるかといふことを考へるよりも、まづそこへ行くことが先決問題である。しかしこゝにも相當の労働の出来るものもあるのであります。それに人もるのであります。ですから彼らも愛さなければならぬ。彼らをよく指導せねばならない。先程一寸お話ししましたニューギニアの視察の話ですが、その時に兎に角一人の探檢家に三十人のオランダ人がつく、勿論米も食糧もみんな持つて行かねばならない、それから鐵砲射ちも連れて行かねばならない。兎に角鳥射ちの名人を連れて行つて、さうして鳥を射つて御馳走をこしらへてくれるさうです。ところがその人間を連れて行く前にまづ三

日間教育せねばならぬ。何を教育するかといふと、ヤツコラシヨと擔ぐことを教育する。僅か一貫目のものを背負ふ方法を知らない。一寸肩へのつけるとビシヤツと潰れてしまひます。切角肩へのせたかと思ふと十歩も歩かせるとその品物を投げて了ふ、そんな擔ぐことを教育せねばならぬさうです。従つて相當に骨が折れますが、人的資源を利用すれば開發は出來ませう。それには内地からもどん／＼行つて、さうして勿論交替もしまして、又氣候の變り目には避暑もせねばなりません。甚だ悪口いつて恐れ入りますが、外國人の眞似をして、花柳界を無暗に歩き廻つてゐるやうな日本人が海外へ行つて彼らを指導しちや大變なことです。兎に角英米人は搾取したとか何とかいつてをります。搾取をしたのは事實ですが一面又相當な恩恵も施してをるのであります故、兎にも角にも我國程普通教育の發達した國民はないのでありますから、八紘一字の精神によりまして南方へ行きましたなら、十分自重して南方人を指導するやう心懸けて頂きたいと思ひます。

## 六、結 論

丁度五時になりましたので、最後の結論を申しあげます。地下資源に對して御質問が多からうと思ひますが、私の協會では一生懸命調べてをりますから、われ／＼のつくりました資料を十分御利用願ひたい。今日南方を視察して來てから仕事を考へようとか、仕事をしようとかいふお話は多數ありますが、そんなことは御視察にならんでも、御視察になるくらゐの資料は地下資源に關する限り私の方で提供致します。要するに我々が御國の爲に日本精神を世界に示す爲に議論研究は幾らしても宜しいが、唯議論するだけでなしに一つの結果を欲するものであります。どうぞこの際南方といふものを十分理解して、さうして殊に地下資源は大きな會社、相當な資本がなければやれませんが、又お

やりになる方は相當大きな會社の方でございませうから、ひとつ一步乗り出して、さうして視察研究を後にして一步でも仕事をするやうにして頂き度い。われ／＼は世界においても有數の金屬を使用する國民であります。且つ文明の進んだ國民ほど金屬を利用すると述べてをる人があるやうに、東亞の國民として、有てるものとして十分使へるやうになるやうに又使ふやうに、銃後の御努力を切にお冀ひ申上げます、甚だ御靜聽をわづらはしましてお疲れのところを恐縮でありました。(拍手)



## 南方に於ける農林産資源

野村合名會社海外事業部  
業務課長

木村義吉

二二三

### 一、其重要性と優越性に就て

今回の大東亞戦争はその作戦の第一期を終りまして、愈々經濟開發の段階に立到つて居る様に考へられるのであります。然らば開發すべき南方の資源といふものは何であるか？これは通俗的には護謨と錫と云ふやうに云れて居ります。又實際世界に於ける錫の全産額二十一萬噸の中南洋地區から出る錫の量は十四萬噸、即ち約七割に及んで居るのであります。此の點と同時に錫が世界的重要商品であると云ふ兩方の意味からしましても、南方の資源は或ひはこの錫を以て代表されてゐる鑛産資源にあるのではないか、殊に大東亞戦争が勃發致しました直接原因は御承知の様にアメリカが日本に對しまして石油の輸出禁止を行つた爲、これに對して我が國も必然的に蘭印に石油の資源を求めざるを得ない立場に立到つたのであります。然るにこれも蘭印當局の頑冥なる態度に依りまして、思ふ儘に我が國に於て確保することが出来ず、ここに大東亞戦争の勃發する結果となつたのでありますから、どうも南洋の資源と云ふものは錫、或ひは日本の意味から云ひまして石油と云ふ様な鑛産資源にあるのではないか、と云ふ様にやゝもすれば考へられ勝ちであります。併し太陽の位置と地球の關係と云ふものが變らない限り、永久不變に南洋の資源として考へられなければならないのは寧ろ護謨を以て代表せられる農林産資源ではないかと思はれるのであります。御承知の通

り南洋は南回歸線と北回歸線との中に挟まれて太陽は四時頭上にあり、光と熱は燥々として降りそそがれてゐるのであります。従つて太陽の熱と光をその前提條件と致します農林業に於きましては、南洋地區に於て非常なる發展を遂げてゐるのであります。殊に農業と云ふものは凡ゆる産業の基礎でありまして、我々の衣食住の據つて立つ所以のものは何れも農産資源にその基礎を置いてゐるのであります。斯う云ふ様な意味から致しまして十六世紀以來歐米諸國はこの南洋地區に目をそそぎまして、最初は香料の獲得に向つてこの南方の侵略を始めたのであります。事實歐米諸國が南洋のこの熱と光を求めて來た最初のもものは香料でありましたが、其の後この熱帯の南洋の生産能力の餘りにも旺盛なのに着目致しまして、護謨を植林し、オイルパームを栽植し、金額的には少額のもですがキニーネの原木である規那をも植林致したのであります。而もこの護謨に致しましてもパームオイルに致しましても、又キニーネの原木である規那に致しましても、何れもその原産地は護謨はブラジル、パームオイルはアフリカ、規那は南米のペルー、と云ふ様に他地域の原産であるにも拘はらず、一度それ等の植栽物が南洋に移植されれば、他地方にその比を見ぬ生産力を示すのであります。例へば護謨に就いては世界の總産額は百七十萬噸と云はれておりますが、その内の百五十萬噸は南洋地區から出る現状であります。又キニーネに致しましても世界の總産額は一萬噸一寸であります。その一萬噸を生産するのは實にこの南洋地區、それも東印度なのであります。又パームオイルも原産地はアフリカであります。これが南方に移植されましたのは一九一〇年の事でありまして、この一九一〇年以來僅々三十年間に既にアフリカの原産地を追ひ越しまして、世界總産額五十一萬噸と云れております中、三十萬噸は南洋地區から生産する状態にあります。更に南洋の農業生産力が如何に旺盛であるかと云ふ一證左と致しまして、熱帯地にのみ成育

二二三

する椰子から採りますコブラであります。このコブラの生産額も世界の總産額と云ふものは百六十萬噸、この内南洋地區に於て出るのが百四十萬噸、即ち凡そ九割近くも有ります。以上は熱帯地區で以て如何に南洋だけが特に優れてゐるか、熱帯地が農林資源に最も適するものであつて、しかもその内最も秀れた地帯が南洋であるといふ一例に過ぎません。斯ふ云ふ意味からでもありませうが、昔ドイツの皇帝は「熱帯を支配する者は世界を支配す」と云ふことを云つております。併しこの熱帯を支配するものが果して世界を支配するのでありませうか。こう云ふ點に一應私は考へを向けて見る必要が有るのではないかと思ふのであります。

事實南洋は——熱帯地は何處に行つても太陽の熱と光には恵まれて居ります。併してこれをアフリカに持つて行きますと云ふと、氣候が大陸的の氣候であります爲に、折角の熱と光と云ふものが徒らに土地を沙漠化する役しか爲さないのであります。しかるに南洋は四面海に取り囲まれた小さい島々から成つて居りまして、氣候は海洋性氣象の影響を受けて雨が非常に多いので有ります。日本は大體東京を標準と致しまして一千五百ミリ見當降るのであります。南洋地區は所によりまして多少の相違はあり、馬來半島、泰の一部に一千五百ミリ見當の所もありますが、大部分の土地は二千ミリ乃至三千ミリ、場所に依つては雨が降り過ぎて困る、四千ミリ以上の所もあります。が、概括致しまして二千ミリ乃至三千ミリであります。この熱と光が恰度良い具合に海洋性の氣象の影響を受けて降雨を伴つております。それが即ち南洋が特に熱帯地にあつて世界に冠絶してゐると考へられる所以のものであります。更にもう一つ考へなければならぬ事は概してこの熱と光とを中心として熱帯の農業と云ふものは事の性質上非常に量が嵩ばる原料品であると云ふ事なであります。原料品の場合に於て先づ考へて見なければならぬ問題は輸送問題であります。輸

送問題にして解決しないならば折角の熱帯地區の物資と云ふものもその役をなさないのであります。先程申し上げました様に南洋地區は他の熱帯地方と異つて小さな島々であります。この事は取りもなほさず農業生産物を運搬する陸路の距離が非常に近く短い、即ち輸送問題については左程顧慮する必要がないと云ふ事、以上の様な諸條件が相俟ちまして今日熱帯中に於て南洋のみが特に優れた農林業の生産地であると言ふことが云はれる様に相成つた譯なんであります。それを例を以て申し上げますれば、日本内地で一年で成育する様な物は朝鮮では二年かゝると云はれておりますと同様に、日本で二年かゝる成長は臺灣では一年で達成せられます。これが更に南洋に行きますならば臺灣で二年かゝる物が恐らくは一年で達成せられるのではないか？實際には理論通りには参りませんが、一應はこう云へるのであります。この農業生産力の旺盛、これが南洋の變らざる所の大資源であると云ふ風に私は考へるのであります。

勿論現在の事態に於ける南洋の農産資源その物が我が國に取つて緊切緊急不可缺の物であると云ふ點に就きましては多少の議論も有りませう。現在の熱帯の——南洋の生産物と云ふものは何れも日本に取つては過剰物資でありまして、綿花その他の所要物資は南洋地區には今まで出て居らないのであります。併しながら兎に角我々が着目すべき點はこの熱帯の農業生産力と云ふものが非常に旺盛であると云ふこと、これが今迄何れも歐米人的の觀點から利用され砂糖を作り、コーヒーを作り、煙草を作つて彼等の生活享榮に資して來た、これを新しい日本人的の觀點から訂正して行くと云ふことが、我々の使命であり、南洋の意義が本當に東亞共榮圈に於て輝く時期が來るのではないかと考へるのであります。

先づ現在の熱帯に於ける農産生産物として何が一番大きいものかと云ふと、先程も申し上げました様に護謨であります。この護謨はブラジルの原産でありまして、護謨の原木の名をヘビヤブラジリエンスと申してゐるのであります。が、當初護謨が発見されましたあの弾力性と云ふものが他の物資に於ては得られない、而も原産地はブラジルのみであり、且生産量も需要に對して足らなかつたものでありますからして、非常な値段の騰貴を致したのであります。そして斯ふ云ふ様な優良な植物と言ふものは他國に輸出することを禁止したのであります。従つて長い間護謨と云ふ物はブラジルの獨占下に置かれて居つたのであります。が、イギリス人のヴィツカムといふ人がこの護謨の種をブラジルから盗み出して、これをロンドンの舊植物園で發芽させましてセイロンとシンガポールへ移したのであります。それが今日世界の總生産可能量百七十萬噸の中百五十萬噸を南洋地區から出すと云ふ様になつたのであります。護謨は戰前世界の生産國の間に於て協定を作りました。世界の今日迄の消費量と云ふものは精々百萬噸見當のものであります。が、世界全部合しますと百七十萬噸の生産能力に對して百萬噸の消費しかなないのでありますからして、世界の各護謨生産國は護謨の限産協定といふものを作り上げて、各國の生産能力といふものを査定致しました。それに依りますと云ふと馬來半島は六十五萬一千噸——それは一九四二年度の割當であります。蘭印地區が六十五萬噸、この二つの地區で殆ど大部分を出してゐるのであります。が、その他の南洋地區からも出るものを合しまして全部で百五十萬噸の生産能力を持つ譯となつてゐるのであります。此の他に護謨はどこから出るかと云ふと、セイロンと印度とアフリカとブラジルであります。これを合しまして採れる護謨の量と云ふのは十五、六萬噸位のものであります。東亞共

榮園で採れる護謨の量は百五十萬噸、その他のものが精々十五、六萬噸、合せまして百六、七十萬噸見當になるのであります。が、この内百五十萬噸と云ふものが兎に角帝國の壓制下に有ると云ふ點に於て、それは今後におきましてアメリカなりイギリスなり、從來の護謨の大消費地であつた所の國々に對してそれを武器として重大なる經濟的壓迫を加へ得ることの出来る資源であると考へられるのであります。御承知の様に百萬噸の中でアメリカの消費するのは六十萬噸見當であります。イギリスが十五萬噸、従ひましてアメリカは自國において六十萬噸の護謨を消費するのに對して手近には殆んど護謨が無い、それが一旦事有る場合に於きまして、假に日本が南方を制壓した場合におきましては、護謨の補給に困ると云ふので非常に慌てふためきまして、獨英開戰の直後アメリカは急いで護謨の買留めをしたのであります。即ち大體五十一萬噸の貯藏計畫を樹てまして、この他に常備ストックとして十五萬噸、合せて六十六萬噸位ひのストックを去年の終りに確保したのであります。先程申し上げました様にアメリカに於ける年の護謨の消費量と云ふものは六十萬噸であります。イギリスが年十五萬噸、それに對しましてストックが六十六萬噸見當有つたにせよ、それは一年で無くなる計算になります。この護謨が無くなつた暁には自國の勢力の及ぶ所、即ち僅かにアフリカとブラジルの三萬噸見當の護謨しかは入らないことゝなるのであります。この場合に印度セイロンの十二、三萬噸の護謨は連中としては期待し得ないじやないか、さうして見ますと護謨を中心とした丈でも英米の經濟的困難と云ふものは當然豫想され得るのであります。斯う云ふ様な意味から致しまして護謨を中心とした南洋の重要性と云ふものは、今後大東亞戰爭が終了し、茲に世界廣域經濟と云ふものが行はれる状態になりました場合に於て、この護謨を以て今まで石油で苦しめられたと同じ様な苦しみを英米に與へ得ると私は考へ得るのであります。今まで日本が石

油を確保するのに非常に苦勞したと同じ様に、英米が護謨を確保する爲に我々に對して相當弱味を示すであらうと考へるのであります。この護謨の用途と云ふものはどう云ふものであるかと申しますと、御承知の様にタイヤ、チューブがその大部分であります。六十%位と云ふものは要するに自動車のタイヤ、チューブに使はれてゐるのであります。殊にアメリカに於きましては自動車の保有臺数が三千五百萬臺、年々生産する自動車の量と云ふものは四百萬臺乃至四百五十萬臺であります。斯様な大量な自動車工業を持つてゐるアメリカ工業に取つて、假りにも護謨が來なくなると云ふ時代が來るならば、それは經濟的に非常な脅威となり得ると思はれます。アメリカの輸出産業で一番大きいものは機械工業でありますが、その次に來るものは石油、その次に來るものは自動車工業であります。この自動車工業が護謨の遮斷に依つて閉鎖しなければならぬと云ふ事態を考へて見ますならば、それに關聯するスチール其の他の凡る産業面も相當深刻なる打撃を受けるであらうと思ふのであります。こういう意味に於きまして護謨が南洋地區以外から出ないと云ふことの爲に世界各國は何れも護謨の代用品の研究を始めております。護謨の代用品の中で一番最初に考へに上りましたものは護謨と同じ様な物質を出す他の植物體がないかといふこと、こうした結果アメリカは御承知のテキサスとメキシコの原産でありますグアールゴムと云ふものを發見しまして、それを使用してゐるのであります。それから得られる護謨は極めて弱いのであります。精々五%位をヘビヤブラジリエンスの護謨に加へて使用することが出来るけれども、それ以上はどうしても弾力性を缺くし伸びが悪いと云ふ缺點が有るのであります。戦前ロシアはタンポポに似た植物タウサグイツより良質の護謨の採れるのを發見した事も有るのであります。これも生産費が高いし思ふ様に集まらないのであります。現在の所年生産量が四千疋見當のものであります。どうもこ

う云ふものは駄目だと云ふので考へたものが再生護謨であります。一旦使用致しました所の護謨、自動車のタイヤやチューブ等を買ひ集めまして改めてゴムを作る、ところが護謨と云ふものは製品とする場合に昔の充分な弾力性を失ふものであります。本來の弾力性ある護謨を再生護謨に期待することは不可能なものでありますからして、現在でもその用途は天然護謨を使はなくとも良い所は精々再生護謨で間に合せて置かうと云ふ程度の用途しかないのであります。次に行はれてゐるのが御承知の様に合成護謨であります。護謨と同じ様な性質のものを科學的に合成することが出来るであらうか、それがドイツに於けるブナベルデュレン、ロシアに於けるSKA、BKD、アメリカに於けるネオプレンE及G、或はヴィニライトと云ふ様なものであります。それ等の原料は石炭と言つては誤弊がありますがコークスとアルコールから採るものであります。これに二種類あるのであります。最近アメリカでは石油の排氣瓦斯から合成護謨を採る事に成功したと喜んでおります。しかしこの石油の排氣瓦斯から採る護謨のコストは封度二十五仙位であります。それに對して天然護謨のコストは精々九仙位のものであります。殊にアルコールから取る護謨とか、コークスから採る護謨と言ふものはその生産費は封度三十五仙を下らないと云はれております。こう云ふ様な意味に於きましてどうしても他の植物體から採る護謨も再成護謨も、或は合成護謨も充分な護謨代用品とはなり得ないと云ふので、アメリカあたりでは矢張りヘビヤブラジリエンスを自國の近くに植栽しようと思ふ計畫を樹てたのであります。今から十四、五年前にアフリカのリベリヤに於きましてファイヤストーンがエクロンから毎日ラジオで産業監督を行ふと云ふやうな大掛りな植栽計畫を樹て、實行に移つたのであります。これは勞働者の不足したのと、マラリヤの爲に失敗致しました。フォードもブラジスのアマゾン流域に相當大

規模の植栽計畫を實行致しましたが、これもマラリヤの爲に到頭失敗致しました。

斯う云ふ風に考へて見ましても如何に南洋といふものが護謨を中心として恵まれてゐるかと思ふことがお分りになると思ふのであります。アメリカがアフリカや南米に於て植栽を試みたのが何れも失敗し、唯世界の護謨の生産地として残つてゐるのは南洋のみといふ事實の中に、我々は南洋が農林生産地帯として如何に秀れたものであるかと云ふことを認識し得ると思ふのであります。

### 三、キニーネに就て

同様にキニーネの原木でありますシンコーナと云ふ樹もこれは南米のペルーの原産であります。時のペルーの總督をして居りましたシンコーナ伯爵の夫人がマラリヤにかゝりまして、このシンコーナの木は皮を煎じて飲ませたところがマラリヤが立所になほつたと云ふので、感激の餘りシンコーナ伯爵の名前を戴きましてシンコーナと云はれてゐるのであります。この木も南洋が世界の總生産額は一萬噸一寸であります。その中の一萬噸が南洋から出るのです。この木は非常に土壤を選び好みますので優秀な秀れた土壤でないといふ木は育たないのであります。次にこの木の難しいところは氣候が年中一樣でなければならぬ、變つては駄目だと云ふ條件を持つてゐる事でもあります。而もその氣候が年中同じ様に暖くなければならぬ、熱過ぎても駄目であるし、寒過ぎても駄目である。斯う云ふ様な面倒な氣候に對する條件を持つてゐることでもあります。南洋の高地帯と云ふものは年中平均して涼しいのであります。日本は春と秋の氣候を始終持つてゐるのであります。勿論南洋は低地帯は熱いのであります。これは日本の夏と變らぬ位暑いのであります。一度山に行きますと相當涼しいのであります。それが爲に南洋の高地に行きますと年中

變らざる溫暖な氣候を持つてゐる、これがキニーネにとつて一番良い氣象條件であります。他にこの氣象條件を備へてゐる所はないのであります。勿論土壤が悪い、そう云つた所はアフリカにも有りませう。しかし土壤條件の良い所、例へばジャバの火山灰に恵まれた地帯と云ふものは、これは熱帯においても最も秀れた所であります。この秀れた土壤といふものは御承知の様に日本人が麻の栽培を行つてゐるダバオ、英領北ボルネオ、それからスマトラの東海岸、それからジャバ、こう云ふ地帯であります。中にもジャバの西部地帯といふものは非常に秀れた土壤條件を備へております。キニーネと云ふものは大體十五年に輪伐致しまして規那のバークを採り、それからキニーネを採るのであります。大體五年位から木の枝を切りましてこれからも多少収益が上りますから、五年経てば大體安全な植物です。十五年経てば一噸九萬圓もするといふものですから五割見當の収益採算になる筈であります。しかもこのキニーネと云ふものはマラリヤに對しては、これより以上に利く藥はないのであります。種々合成のキニーネの役をするマラリヤ退治の藥はありませうけども、實はこのキニーネ程利く藥はないのであります。而も熱帯の地に作戰が行はれます場合に今迄の戦史に依りますと云ふと、鐵砲の彈で死ぬ人間よりマラリヤで斃れる人間の方が多いと云ふことが良く云はれて居ります。従つて一昨年ドイツ軍がアムステルダムに攻入つた時、先づ第一に確保したのは現金でもなければ兵器工廠でもなく、實にこの規那の工場であつたといふことが云はれて居ります。又最近に於ける日本の南方作戰に於て比較的マラリヤの罹病率が少なかつたといふことは、日本が要するにこのキニーネの確保を怠らなかつたと思ふ點に歸するのではないかと自分は考へてゐるのであります。斯様に生産量こそ一萬噸そこゝのものであり、重要性が無い様であります。その持つてゐる意義から云ひましてこれ程重要な資源と云ふものはそうないの

でありまして、而もそれが殆んど南洋地區からのみ出ると云ふこの南洋の農林産事業に對して我々の認識を新にして置く必要が有ると思ふのであります。

#### 四、パームオイル

次は南洋の林産資源として重要なものにパームオイルがあります。パームオイルの世界總産額は五十一萬噸であります。この内南洋地區から出るのが蘭印二十五萬噸、馬來五萬噸で合計三十萬噸出るのであります。このパームオイルと云ふのは、生産單位面積當りの生産力が非常に多い、例へば棉の種から採れる油と云ふものは一町歩六十疔見當であります。大豆は一町歩當り二百四十疔見當、稍コブラは良いのであります。それでも一町歩當りの生産量は四百二十疔位のものであります。それに對してパームオイル一町歩當りの出來高と云ふものは普通二噸半、最近優秀な種子を植へつけたところでは四噸の生産量を上げております。こう云ふ單位面積當りの生産量が非常に多いものですから、他の如何なる油よりも値段の安い油が出来るのであります。一疔大體邦貨で五錢位、それがパームオイルの生産のコストであります。それからこのパームオイルの用途と云ふものは、今迄只單に値段が安い、單位面積當りの生産量が多いと云ふ事の爲に愛用されてゐたのであります。この用途は最近愈々擴大の傾向にあるのであります。所でパームオイルでなければならぬと云ふ用途がブリキの鍍金をする場合のキャタライザーに使はれてゐるのであります。それが唯一のパームオイルの特殊用途と云はれてゐるのであります。遊離脂肪酸の少ないものはマルガリンになつて居り、脂肪酸の多いものは普通の石鹼とか蠟燭と云ふ物に使はれてゐるのであります。唯このパームオイルの今後に於ける用途の一つとして考へられてゐるのはビタミン劑の抽出であります。パームオイルは人蔘の色をし

た油であります。人蔘の色と云ふのは、あれは要するにカロチンを含んで居るからで有り、カロチンと云ふのはビタミンの母脂であります。今はカロチンを抽出して普通の白いバターを作つてゐるのであります。今後はこの色素を利用してビタミンA含有のマーガリンを製造することに成功するならば、その用途と云ふものは非常に擴大せられるのではないかと思ふのであります。又このパームオイルと云ふものは發火點が非常に高く二百九十度で以て發火しない、この爲に非常な高速の回轉をする發動機の潤滑油に充分用途が見出される可能性が有ると思はれるのであります。現在礦物性の潤滑油以外に植物性の潤滑油としては御承知の通りヒマシ油が有ります。このヒマシ油と同じ役目をパームオイルがするのではないか、こう云ふ觀點から今日日本でも相當パームオイルの研究が盛になりつつあるのであります。茲に日本がパームオイルから潤滑油を採り出すと云ふことに成功致しますならば、パームオイルの植栽と云ふものは現在南洋地區で三十萬噸は採れると云ふだけでなしに、更にパームオイルの生産の擴大と云ふものが企圖されなければならぬと考へるのであります。唯パームオイルの缺點と申しませうか、それは比較的溫度が高くとも固まると云ふ缺點が有るのであります。日本に各持つて來ますともう固つております。この點ヒマシ油に對して非常に劣つてゐるのであります。それに對して或る程度の化學操作を加へますと、ヒマシ油代用の潤滑油が出来るのではないかと豫想されてゐるのであります。

#### 五、砂糖、麻とフィリッピン

次に南洋の農産資源として重要なものに砂糖が有ります。砂糖の大東亞共榮圈に於ける消費は二百四十錢噸と普通云はれております。それに對しまして東亞共榮圈全域に於ける生産能力と云ふものは、最近の數字によりますと四百

三十萬噸であります。つまり相當過剰になるのであります。これが對策は目下各方面に於て相當論究されてゐる様であります。兎も角南洋地區からだけでもフィリッピン百萬噸、蘭印地區で百二十萬噸の輸出を行つてゐるのであります。唯この砂糖に關聯して考へて見るべき問題はフィリッピンの獨立問題であります。御承知の様にフィリッピンの獨立といふものは、何故折角アメリカが一旦領有したフィリッピンを手放す氣持になつたか、前に問題があるのであります。表面的には嘗てアメリカがフィリッピンを領有する際にフィリッピンの民衆に向ひ、世界に向つて、まだフィリッピンは獨立の能力を持つてゐないからその獨立を認めない、フィリッピンが獨立の能力を備へるならば何時でも獨立を認めよう云ふ約束を致しました。その約束の手前から一應獨立を許す氣になつたのでせう。しかしそれは單なる口實でありまして、本當の原因と云ふものは矢張り經濟的原因ではなかつたかと考へるのであります。と云ふのは第一は砂糖であります。フィリッピンは最初棉を極めて廣範圍に植付けて居た島なのであります。ところがアメリカは自分の所で米棉が澤山出來ますから、棉を止めて砂糖を作ることとやらせたのであります。然るにその後にはきましてアメリカの資本と云ふものがキューベに投ぜられて十億と云ふ投資が砂糖黍の栽培に向けられたのであります。而も自國々内におきまして甜菜糖の増加に依つて砂糖が寧ろ有り餘つて來たのであります。しかもフィリッピンが自分の所の植民地と云ふ關係から、どしどし無税では入つて來るのであります。そうすると自國の甜菜業者が困る、キューベでもつて折角資本を投下してゐた物が困ると云ふのでは、何か機會があれば獨立を許して經濟的羈絆を脱しようではないかと云ふのが大きな獨立問題を考慮するに至つた原因ではないかと思ひます。同様の意味におきましてコブラもそうであります。アメリカのタロとかラード、或ひはユツトシスオリと云ふのが充分生産

を上げてゐるのに對して無税でどしどしコブラが入つて來ては自國の産業がこれが爲に弊害を蒙る、それよりはフィリッピンに獨立を許して、關稅の障壁を以てフィリッピンから來る砂糖なり、コブラを遮斷した方が良いと云ふ經濟的の理由、もう一つは日本人の排斥を行つたと同じ様な意味に於きまして、東洋人は生活程度が低い、あの生活程度でもつて、どしどし働く、そうすれば資本家の方では安い賃銀で日本人を使ひ、フィリッピン人を使ふが甘やかされたアメリカ人と云ふものは自分等の賃銀の標準も下げられなければならぬ、その賃銀を引き下げられるならば日本人並の生活しか出來ない、それよりも東洋系の外人をシャツアウトして我々の生活を享樂しようじやないか、と云ふ労働問題とこの二つの理由からして獨立を許す様になつたものと私は考へてゐるのであります。

併しながらこの事實こそは——フィリッピンがアメリカに今まで充分あまやかされて來たと云ふ事實こそは、我々が今後南方を經營する場合に於て、フィリッピンを經營する場合において非常に大きな問題を持ち來たすのではないかと自分は惧れております。フィリッピンは御承知の様に今迄アメリカに煽てられて來た國であります。それに形式的の教育が非常に普及して居ります。よく云はれる事ではありますが植民地經營でアメリカ人は學校まで作る、オランダ人は先づ道路を作る、イギリス人は銀行を作る、フランス人は劇場を作ると云ふ様に云はれて居りますが、要するにフィリッピンに於ても本當に期待された民族でないにもかかわらず、形式的の教育が非常に盛に行はれました。その爲に連中は八時間労働制も自分等の考へに持つておりませうし、安易なる生活を求め様とする氣風も持つております。その間法律的利害關係に對する判斷と云ふものも持つておりませう。こうゆう風に甘やかされて來てゐる爲に、砂糖に致しましても生産費が非常に高い、従つてアメリカの支配下から東亞共樂圈の一構成員と轉換致したフィリッ

ピンと致しましては、この根本的な物の考へ方を直してかからねばならぬ、これを鍛へ直す必要がある。それが出来る迄はフィリッピンの經營と云ふものは相當の難局に當面するだらうと私は考へて居ります。

次に南洋の作物として、日本人が多くやつて居たと云ふ意味で有名なのはダヴァオの麻であります。このダヴァオの——フィリッピンの麻で考へなければならぬ點は次の點であります。即ちフィリッピンで出来る麻の生産量は十八萬噸、その内日本人が生産してゐる麻の量は八萬噸であります。しかもこの植付け面積はどういう風になつてゐるかと申しますと、三十三萬町歩が全生産面積でありまして、その中で日本人がやつてゐるのが八萬町歩であります。面積の比率に致しましては僅かに二四%全生産量では十八萬噸の八萬噸で四四%であります。それは日本人が向ふに行つた場合に於て如何に勤勉であるかと云ふ事を物語るものであります。勿論相手はフィリッピン人ではありますが、兎に角農業經營者としてこの日本人の實力と云ふものは、この面積二四%生産量四四%と云ふ比率の間に大いに示されてゐると思ひます。これは——私は北米にも参りましたしブラジルにも参りましたが、それらの地區に於ける日本人の勤勉さと云ふものは非常なものでありまして、他國民の到底追従することの出来ぬ位猛烈に働いております。従つてフィリッピンに於て面積二四%で生産量四四%上げてゐると云ふのは何等異としないのであります。

唯この點について考へて見なければならぬのは、新しく日本人が南方に進出する場合に、農業經營者として進出すべきであるか、それには私は多少の疑問を持つております。勿論我々が農業經營者として向ふに行く場合に面積二四%で四四%の生産量は上げ得るでありませう。しかし日本人の二世三世と云ふ者が向ふの方に移住するといふ考へから致しますならば、相當程度智力に於ても體力に於ても退下を來すのではないか、こう云ふ意味におきまして南方に

根を張つた直接の自己經營に依る農業經營と云ふものは相當危険である。或る程度自分の子々孫々を犠牲にすることなしに農業と云ふものを南方に廣めると云ふことは出来ないのぢやないか、怖い事であると考へております。今迄の植民地經營に於きまして温帯地方に於ては移民政策が好成績を収めております。恰度イギリスがアメリカ大陸に移民を行つた様な、あゝ云ふ様な氣象條件の所では移民政策はやるべきでありませう。併しオランダ人にせよイギリス人にせよ、南方の植民地を經營する場合に於ける工作と云ふものは移民の形式ではなしに、寧ろ原住民を使用してその事業を開發すると云ふ方針に據つております。これはあの氣象條件を考へて見るならば、我々も當然その方向に進むべきであると思ひます。日本人は直接農業移民としてでなしに農業の指導者として向ふに行くべきである。こう云ふ考へが必要ではないかと自分は考へるのであります。

## 六、米

更に南洋の農業として大きな問題は米の問題であります。米は要するに泰、佛印、ビルマで相當の餘剰になつております。即ち泰、佛印、ビルマの人口が約五千萬人、それに對しまして米の生産量は二千萬噸であります。向ふの米は日本の米の様に硬質米でなしに軟質米でありますからして、一噸七石見當になるのであります。暇に六石と致しまして一億二千萬石になるのであります。従つて向ふの方の住民も年の蛋白攝取量は米に換算致しまして、大體一石でありますからして五千萬石の米が有れば五千萬の泰、佛印、ビルマの人民が養はれるのであります。残りの七千萬石は日本が米の不足する場合に補給し、支那大陸の米の不足をこの泰、佛印、ビルマに求める。又馬來半島、蘭印の多少の不足をこの泰、佛印、ビルマに於て補つてゐるのであります。更に考へて見まするにこの地の單位面積當



りの米の生産量は我が國に比し極めて少ないのであります。即ち日本では一町歩當り三噸は生産されております。これに對しまして一番米作の進んで居ると云はれて居りますビルマでも一噸六、泰に行きますと一噸四、佛印は一噸二と云ふ數字であります。従ひまして今後東亞共榮圏の人口が非常に膨脹致しましても、唯單にこの米作の改量することのみに依つて、日本並に持つてくることに依つて充分自給の道がつくと云ふ様に確信して差支へないと私は思つております。

### 七、過剩物資の處理

以上申し上げました様に護謨に致しましても、砂糖に致しましても、それからバームオイルその他の油脂原料に致しましても、麻に致しましても、今の所東亞共榮圏の需要から考へて見ますと、いずれも過剩物資であります。それからこれは申し上げませんでしたけれど煙草があります。煙草も蘭印で四萬噸、フィリッピンで四萬七千噸、それが何れも歐米人の嗜好に適する様な葉巻の原料が多いのであります。殊にスマトラのデリー地帯から出るデリー煙草と云ふのは葉巻の上巻をするラツパーになるのであります。そう云ふ嗜好的の商品であります。それからお茶も七萬噸出ます、コーヒーも百五十萬俵位出ます。それは當然東亞共榮圏に消費して餘りある量であります。何れに致しましても斯様な過剩物資の需給調節と云ふものが當面の問題になつてゐる様であります。その需給調節を如何に行ふかといふ點に就て、一方に於ける消費の奨励、例へば護謨についても今まで東亞共榮圏が精々十萬噸しか使はなかつたのをもつと護謨を使ふ様にしたらどうか、今迄護謨の代用に種々の物資を使つてゐたのであります。今度は反對に他の物資の代用に護謨を使ふ様にして行つたらどうか？この點に就て考へられるのは、新聞にもあつた様に護謨を急

速に還元致しましてガリリンを採る、或ひは護謨の成分そのものが纖維成分と殆んど似てゐるから護謨性纖維を作つてはどうか、と云ふ様な研究も進められてゐる様であります。斯様に護謨の用途の擴大を圖る必要がある。これは積極的の部面であります。他方に於てどうしても護謨の減産と云ふものは或る程度不可避ではないかと云ふ様に考へられる。こう云ふ様な點について一番大きな問題は住民との關聯性であります。護謨は百五十萬噸南洋地區から出るのであります。その中の三分の一は住民の生産にかかるとあります。従つてこの護謨を全面的に減産するならば立ち所に住民の生産に支障を來たすと云ふ事になつてゐるのであります。次にコブラと云ふものは先程申し上げました様に百四十萬噸出るのであります。このコブラの大部分と云ふものは住民の生産にかかつてゐるのであります。従つてこの生産量を調節する場合に於きましても、住民の生活安定と云ふ事を第一に考慮して、地域的には相當程度の住民に對して考慮と云ふものを考へに入れて減産對策を樹立する必要があると云ふ様に自分は考へております。勿論この點につきましてはすでにある程度の決定を見てゐる様であります。一方に於きましてはこの南方住民と云ふものは生活の弾力性が有ると云はれております。これは實際私共が經驗する所でありまして、連中は藉するに對日を以てするならば、一年二年中に今まで護謨を植てゐたものの脇に米を作りコブラの脇に玉蜀黍を作ると云ふ様にして自給自足の體制を整へ得るであらうとは考へられますが、宣撫工作、治安工作と云ふ意味から云ひましても、徒に住民の反感を買つては駄目だ、斯ふ云ふ種類の事に對しまして相當考慮を拂ふ必要があると云ふ風に私は考へております。砂糖に就ても大體の方針がフィリッピンは昔は棉を作つてゐたそうでありまして、砂糖を止めさせて棉を作らせたら良いであらうと云ふ考が盛な様でありまして、大體そう云ふ風な方向に國營も動いてゐる様であります。併し

唯その全部を直ちに棉作に轉換させるのかと云ふと、そうではなしに矢張り砂糖からブタノールとかアルコールを採る、従つてその量を睨み合せつつフィリッピンの砂糖を棉作に轉換して行こうと云ふ計畫の様であります。唯護謨について考へて置く事は要するに今迄護謨は原料の儘歐米に輸出されてゐたと云ふ事實であります。この事實こそ我々日本人の新たなる觀點から考へ直して見る必要がある。殊に護謨の原液ともいふべきラテックス、最近アメリカはラテックス工業が非常に盛になつて居る様であります、このラテックスは護謨の成分と水が合したのであります。従つてラテックス工業の盛になる爲には益々多くアメリカへ運ばなければならぬ運命にあつたのであります。でありますから船舶が不足である今日、日本が積極的にラテックス工業を原産地に起し、進んで護謨工業を大規模に南洋地區に起し字がまして、そうして護謨といふものは要するに精製品の形式でなければ歐米諸國に輸出しないと云ふ大きな氣あつて然るべきぢやないか、ランカシャの綿業を驅逐して日本が世界優位の綿業國になつた如く、更に護謨におきましても、今迄のアメリカの地位を奪つて日本人の護謨工業が盛になり、大なる護謨工業國となる必要があると云ふ風に私は考へております。

#### 八、不足物資棉花とタンニン

次に南洋地區で現在生産してゐない不足な物資は棉花であります、この棉花と云ふものは南方地區で實際出来るのか、これは或る程度出来るかと云ふのが正當の云ひ方ではないかと自分は考へております。或る程度の問題がありまして、南洋全域に棉を作つては恐らく失敗するであらう。唯歴史から見てもフィリッピンでは棉花を栽培した事があるんだ、その故に改めてフィリッピンに棉を作る事は成功するであらうと考へるのであります、それかと云つて南

方全域地區に棉を栽培すると云ふ考へは——この考へ方には相當疑問があると私は考へます。御承知の様に棉の栽培地帯と云ふものは大陸的氣候の影響を受ける所であれば駄目であります。アメリカの様に大陸的氣候の影響を受けてゐる所では棉花が成功する。ブラジル然り、印度然りでありまして何れも大陸性の氣象の影響を受ける所であれば、今迄は出来なかつたのであります。支那大陸にそう云ふ意味に於きまして世界有数の棉作地帯であります。今は米作地帯が多いのでありますからして、日本の方へは入つて来る量が少ないのであります、彼處の生産力と云ふものは一時は一千三百萬ピクルになつた事がある。あの地區の確保こそ望ましいのであります、徒に冒險を南洋地區に行ふと云ふことは相當考慮して深長に計畫を進める必要があるのではないかと自分は考へるのであります。

その他に不足物資として農林産關係の物ではタンニン材料、それは戦前は何れも南米やアフリカから輸入されてゐたのであります、南米のアルゼンチン、アフリカが日本のタンニンの供給源であつたのであります、大東亞戰勃發以來この供給は止りました。従つて我々は南方にタンニンを求める必要がある。このタンニンは要するに南方に行きますと云ふと沼澤池とか、河の入口とか、或びは港の所など到る所に生へておりますマングローブの皮、これが當面の需要を充すに充分ではないかと考へられるのであります。日本の消費量は純タンニンに換算致しまして大體三萬噸であります。これをバークに直しますと十萬噸になります。この十萬噸を南洋地區から新たに確保すると云ふことは、それは指導さへ宜しきを得るならば直ちに確保することさへも困難ではないと私は豫想致しております。唯併し遺憾な事はこのマングローブのタンニン劑と云ふものは餘り宜しくない、どうも收縮性が強過ぎて早く固り過ぎる、内部に對する侵透力が弱いと云ふことが云はれてゐます。従つて南方地區に一刻も早くワットルバークの原木を植栽

する必要がある。これは昔の蘭印政府においてもどうもタンニンの自給は國家の急務である、然し乍らこれをマングローブに期待する事はよくないと云ふので、年三萬噸のパークを栽植する計畫を樹て、栽植を實行し、その結果現在残つておりますのは一萬町歩でありますが、それを二萬五千町歩迄やつて行こうと云ふ計畫を樹て、おります。日本もこの蘭印政府の計畫を踏襲しまして、近き將來に於て東亞共榮圈に必要とするタンニンは自給すると云ふ方向に向ける必要があると私は考へてゐるのであります。

### 九、パルプ資源としての南洋の將來性

次に南洋の林業でありますが、日本はパルプ材に非常に不足しております。今日南方にこれを求める事が出来るのではないか、今迄南洋地區と云ふものは遺憾ながら歐米の壓制下にありまして、歐米の欲する儘の栽植物を栽植せらるべく餘義なくせられて來たのであります。歐米人に取つては木材の様な嵩ばる資源は敢て考慮する必要はなかつたのであります。何も別に船賃を出して迄歐米に南洋の木材を持つて行く必要はなかつたのでありますから、泰、ビルマ、蘭印で出来るチーク材以外、大して考慮を拂つて來なかつたのであります。併し日本人の物の考く方を致しましなれば南洋と樺太は日本の本州を中心と致しまして何方も相似た距離であります。しかも先程申し上げます様に高い農業生産力を持つてゐる南洋に最もパルプに適した樹種を選んで栽植する必要があります。それが日本人の考慮に上らなかつたのは要するに植林と云ふ問題を考へなかつた爲であります。今迄南洋の木材と云へば南洋に自然に生へてゐるものを切倒して建築材だけを選び出して日本に輸入して來たのであります。どうも南洋の木は種類が多くて困る、あれではパルプになり得ないと云ふ、これは寒い所に行くとも自然の條件が制約されて生へたひ木も生へ得

ないのでですから自然に樹種が制限せられるのであります。所が南洋は非常に恵まれた自然條件を備へて居りますから凡ゆる栽植物が何れも旺盛な成長を遂げて種々の種類の材木があるのであります。又中にはこの南洋の材木と云ふものは種類が多くてパルプにならんと云ふ人がありますが、これは南洋地區に新たな着想の下に計畫的栽植を行ふと云ふ考へ方で進むならば自ら解決する問題であります。樺太で何十年かゝるものも南洋地區では七八年で立派な木が取れるだらうと豫想してゐるのでありますから、栽植すると云ふ計畫を樹てるならば南洋の林業と云ふものは相當日本人の活目して良い事業になるだらうと私は考へております。それに今迄針葉樹は特にパルプ製材として宜しい、潤葉樹はパルプ繊細が短かくて駄目だと云ふ事がよく云はれております。併しこれは南洋の木を全部研究して見た結果であらうか、事實もつと研究して見る必要があるのであります。そう云ふ風に研究して立派な木を南洋の熱と光を利用して栽植するならば、必ずや立派なパルプ資源を南洋に於て確保することが出來ると私は確信しております。

### 十、結 び

以上申し上げました様に南方に於ける旺盛なる生産力を利用して、新しい着想の下に日本人の意味から南方の農林産資源を日本の好む方向に變へて行くこと云ふ所に、我々の新たな使命が有ると思ふのであります。それが爲には南方の農林業の研究機關と云ふものが設けられる必要があります。この點に就いては蘭印政府は非常な貢獻をして來ております。一度足をスマトラの東海岸地方に踏み入れますならば、あの偉大なるクルツールヘビートの植林地帯全く私共も敬虔の氣持でそれを見て參つたのであります。あゝ云ふ様な地帯と云ふものは日本人の一つの研究機關を通してなり、或ひは日本の科學を動員致すなりしまして南洋全地區にあのスマトラ東海岸のクルツール・ヘビー

二四四  
トの様な立派な植林地帯を作るならば、南洋の農林産資源は大いに發揚せられるのではないかと私は考へております。(拍手)

## 南洋華僑問題

外務省南洋局 牟田哲 一一

只今御紹介にあづかりました牟田でございます。只今から華僑の問題について概論的に一時間半ばかりの豫定でお話致します。先ずお話致します前に大體話の順序をお話致しまして皆さんの御理解に便したいと思ひます。

第一番に華僑はどういふ現状であるか、その現状をお話します。第二番目に華僑が今日まで發展して來た歴史的回顧といふやうなものを簡単に申上げ、それから第三番目に華僑がかうして發展して來た原因は何處にあるかといふやうな問題について申上げます。以上で大體華僑の現在及其の發展過程が分ると思ひます。それで今度は更に華僑の經濟といふものについて少し解剖してみまして、華僑の資本とか、經濟組織とかはどんなふうであるかといふことを申上げます。それから次に、政治、文化方面について申上げます、従來は華僑の經濟といふものが、華僑經濟の中核をなしてをつたのでありますが、現在日本が新しい東亞共榮圏をつくるといふことになると、この政治、文化といふことは非常に重要な意義を持つて浮び上つて参ります。このことをお話します。未だ時間がありますれば華僑に對して各國政府は一體どういふやうな政策を執つて來たか、それから、華僑に對して今後我々としてどういふ心構へ、どういふ態度を執らなければならぬか、といふやうなふうに大體お話したいと思ひます。

### 一、華僑の現勢

先づ華僑の現勢について、非常に表面的に大あらましなことをお話致します。第一に、華僑問題が現在のやうに非常に注目を惹くといふのはどういふ點かと申しますと、南洋に行つてみると到る所に華僑がゐる、人煙のあるところ華僑のをらないところはない、どんな山間僻地でも支那人が發展してをる、といふところから非常に注目を惹いてゐるのであります。そんなら、華僑は一體どの位をるかといふと、重慶政府の最近の統計で見ると、世界で約八百萬人のうち六百五十萬人が南洋に住んでをります。その六百五十萬人の内譯を申上げると、大體泰に二百五十萬人、マレーに二百萬人、それから蘭印に百三十萬人、佛印に三十萬人、ビルマに二十萬人、フィリッピンに十萬人、濠洲に一萬人といふやうに住んでをります。これは大體純粹の華僑の數でありまして混血兒等は含んでをらないのであります。若しこれ等を含めると恐らく此の二倍、三倍の數に達すると思ふのであります。この六百五十萬人といふ數はどいういふ數かといふことを判然り知るために、日本人はどの位南洋へ行つてゐるかといふことを申しますと、日本人は全體で四萬五千人のうち、二萬八千人がフィリッピンに居り其の大部分はダバオで麻の栽培をやつてゐる状態であります。六百五十萬人の百分の一程も日本人は南洋に在住してゐない。これを以てしても華僑の人的、數的な發展振りが分るのであります。

それから次に、もう少し華僑の問題に關し注意して見ると、次に目を惹かれるものは華僑の送金といふことであります。華僑は年々非常に大きな金を本國に送金してゐる。さうしてこれが年額二億に達し、三億に達する一九三九年に「イーカン」といふ男が統計をとつたところによると十億に達した。戦争始つて四年目に一年の送金が十億に達してゐるといふことを申してゐます。而してこの華僑送金が年々支那の輸入超過の決濟や、國際貸借上大きな役割を果

してゐるのであります。これも参考のため日本の、貿易外受取勘定にどんな對比をなしてゐるかと申しますと、この三億といふ金は、日本が對外投資の利得や、いろ／＼な出稼人からの送金の總額に殆んど匹敵するといふやうに大きな金であります。

それからもう一つは、商業を獨占してゐるといふことであります。南洋へまゐりますと到る所に、さつきお話しした華僑あらざるなしで、さうして現地で貿易でもやつて見ると、品物を買ふにも、賣るにも華僑の手を経なくてはならないといふやうな状態であります。華僑が殆んど外國人と、土人との間に仲介的存在として獨占的地歩を示してゐるといふことに驚くのであります。

それからもう一つ眼を惹くのは華僑は金持が多い。一般に華僑と申しますと何だか華僑といふ言葉自身が、支那の金持の商人といふやうな印象を一般に受けてゐるといふ位に金持が多い。然し華僑といふ言葉の中には決して金持とか、貧乏人といふ意味は含んでをりません。華といふのに中華の華、僑といふのはあそこに假住居をするといふことであります。これを日本語に直して見ますと、支那の在外居留民といふやうな意味である。従つて支那人が日本人を呼ぶには日僑、英國人を呼ぶには英僑と云ふのであります。別に華僑それ自身の中に金持といふ意味は含んでゐないのであります。一般に華僑といひますと直ぐ金持を連想するのであります。斯く富豪が多いばかりでなく華僑の投資してゐる金も相當額に達してゐる。これについては判然りした統計は未だ出てをりませんが、福田氏の計算によると、一九三〇年に四十億といふ計算になつてをります。これに對して最近一九四〇年現在の統計としては、シンガポールの葛といふ支那の華僑研究者が約七十三億あるといふやうな統計を出してゐる。葛の計算を御参考までにい

て見ますと、マレーに約十二億三千万海峽ドル、蘭印に十二億ギルダ、フィリッピンは五億ペソ、佛印三萬五百ピアストル、泰に六億バーツ、合計でこれをシンガポール弗に直すと約四十億になる、といふやうな統計を出してをります。この中にはビルマは入つてをりません。華僑全體の投資が斯様に多いばかりでなく、個人としての金持が非常に多いのであります。ジャヴァに有名な建源といふ店がありますが、大財閥で、この連中だけで數億持つてゐる。それから馬來の方になりますと、排日巨頭として有名な陳嘉庚胡文虎といふ人間も何れも數千萬圓の金を持つてゐた。それから佛印にまゐりますと、そこには黃仲訓といふ男がをりましてこれが約五千萬ピアストル持つてをる。主に不動産であります。現在は不動産の値上りで約一億位になつてゐると云はれる。それから比律賓へ参りますと李清泉等も千萬の金を持つてゐるといふ譯で、到る所に千萬長者が澤山ある。これに比べまして日本人の南洋發展者中百萬以上の金持になつたといふ人が幾人あるかといふと、極めて少いのであります。

それからもう一つ目につきまゝのは、華僑の都市であります。華僑の都市と申しますと支那人ばかりで都市を經營してをる、そこには支那語しか使はれてゐない、さうして看板は漢字で書いてある。其處へ行つて見ますと、これが一體英國や、フランスの植民地であるか、支那の植民地であるかと疑はれる位の發展振りを示してゐるのであります。以上述べた處でも判りますやうに、南洋は華僑、支那人の南洋であるといはれてゐる位華僑は發展してゐる。これが大體外面的、表面的に見た華僑の現状であります。

## 二、華僑發展史

華僑が今日どういふやうな過程を経てかういふやうに發展して來たかと申しますと、これは決して短日月のものでありません。非常に永い歴史的經過を持つてゐるのであります。これは單に支那民族の植民とか、何とかいふ問題ではありません。支那民族膨脹史の一頁をなすものであります。支那民族と申しますのは元來黃河の流域、黃河の灣曲地點に發生した民族であります。それが二つの方向に向つて進んでゐる。一つは北方へ、一つは南方へ向つて發展した。北方へはこれは非常に強い民族がゐた。其の上沙漠地帯で漢民族の得意とする農業に適しないといふ事情から發展し得なかつた。然し南方は肥沃な土地で氣候もいゝし、強い民族もゐなかつたので順調に南へ南へと發展して來た。今でこそ揚子江の流域は支那文化の中心地であります。漢人種が始めて大量に文化を持つて此處に發展して來たのは今から約一千數百年前のことに過ぎません。決して最初から文明の中心地ではなかつたのであります。さうして、此の漢人種が更に南方福建、廣東、廣西方面へ發展して、其處が支那文化の標準に達したのは宋又は元明の時代でありまして、これが七八百年前ですから割合に歴史が新しいのであります。さうしてこれを今度は支那の交通路から考へて見ると、

支那の歴史文明といふのは黃河の流域に發生してゐる。當時のヨーロッパとの交通は皆さんも恐らく東洋史で御承知になつてをりませうが、天山南北路であります。支那文化はこの方面から文化の影響を受けて大變文明が發達したのであります。處が唐の中頃から南海を通ずる道が開け、これが支那と歐洲との一つの重要交通道になつて來ました。従つてこの時代から既に南洋と支那といふものが定期的交通を結んでゐたのであります。而も最も重大なことは此の交通路が時代が下るに従ひ重要性を加へて來た。支那に近代的文化が這入つたのは實に此の道を通じてであります。従つて漢人種が南洋に出ることは自然の勢だつたと云へます。簡単に支那との交通を項目的に申上げて見ると、第一期

は今から約一千七百年前に呉の孫權といふ男がゐて、これがカンボチャに使を遣したといふのが歴史に載つてゐる。これが歴史上一番始めの記録であります。それからこれも有名な話であります。東晋の時代に法顯といふ坊さんが印度へ御経をとりに行つた、出發は陸路西域交通路を通つて印度に出たが、歸りには海路を通つてセイロン島、ジャバを通りまして、廣東、青島を通つて長安へ歸つて來た。その後約百名ばかりの僧侶が印度に留學してをりますけれども、その内三十六名は海を通つて歸つて來た記録がある。これが一千五百年前であります。それから隋時代、大運河を造つて有名な煬帝の時代に赤土國、恐らく今のパレンバン、この間日本の落下傘部隊で有名なパレンバン附近であらうと云はれますが、あそこへ使ひを遣したことがある。これが約一千三百年前であります。それからこの時代にはもう一つ注意すべきことがあります。北支那が北方種族の侵入を受け非常に多くの漢人種が揚子江方面へ移動して來た。その移住漢族の一部は尙南下を續けまして福建、廣東方面迄下つて來た。そして依然として一種族として生活を續け今日に至つてゐる。此が所謂客家族といふのであります。彼等は昔ながらの風俗、習慣、言語の面影を残してゐる。さうしてさらに南洋に發展して、南洋華僑中に福建人とか、廣東人とか、客家族とかいはれる一つの大きな勢力分子になつてをります。それから實際に漢人種が大量に南洋に出たのは、今から一千年前の時代唐時代のことです。其時黃巢といふ亂が起りました。それから廣東地方も非常に亂れました。それで大量の難民が今のパレンバン方面に移住したのであります。それから宋時代になりますと、唐の中頃天山南北路がアラビヤ人の爲に杜されて南海貿易は唯一の交通路となつた上、宋自身特に南洋貿易を自由にしたために南洋との交通が一層盛んになつて來たのであります。それから宋が蒙古族に滅される時には、亦非常に澤山の難民が南に出た。その中には安南地方や佛印地方に逃げて來て、

佛印を根據地として反撃を試みようとした事件もあります。即ち彼等の一部は雲南の方へ出又他の一部は海路南支を控制しやうとした。従つて多數の宋の臣民がこの方面へ下つて來た。それから次は、元が非常な大軍を發してジャバア遠征をやつた。この時に派遣された軍隊が約二萬人あつた。皆漢人種で戦争としては結局成功せず可なり引揚に困難した。従つてこの二萬人は全部は歸つてをらないのであります。それから元の次に、明の時代になりますといふと、之れは封鎖政策——南へ下つてはいかぬといふ鎖國政策をとつたのであります。そのために今まで貿易に従事してゐた支那人が失業して盛んに南の方へ移住してゐます。それから東洋史にも有名な鄭和といふ男がこの時代に足掛二十九年にわたつて南洋に遠征した。その一番南は何處まで行つたかといふとアフリカの希望峰附近、それからアラビヤ附近にも行つてをります。此は表面は修交を求めるといふやうなことになつてをりますが、一種の官營貿易であつたと思はれるのであります。それから次は明が滿洲族の清朝のために滅された時にも、やはり難民が南へ移つてゐる。此の中の一派は國姓爺として淨瑠璃で有名な鄭成功で彼等は臺灣へ來た。臺灣の開發の基礎といふものはこの時はじめて出來たのであります。それから愈々近代になりました一八四二年に南京條約が出來た。香港の阿片戦争の結果南京條約が結ばれたが、これを轉機として從來清朝が明時代がらずつとつて來た鎖國が實際上破れまして、南支那の方の支那人が南洋へ出稼ぎすることを餘り取締れなくなつた、比頃南洋に於けるヨーロッパの産業が勞力を必要とするといふので盛んに支那人の苦力を連れて行つた。茲に現在の所謂新しい意味の南洋華僑が登場して來た。

かういふ具合で支那は南洋と古い歴史的關係を持つてゐる。従つて支那人は南洋に對して昔から關心を持つてゐたのであります。歴史的に南へ南へと發展して來た漢人種が更に南洋に出るのは當然の結果でありまして、恐らく私は

かう思ふのであります。ヨーロッパの勢力が今から百年かそこら後れてゐたならば、今の支那に近接してゐる地方は相當廣く漢人種に同化されて了つたでせう。華僑の進出といふものはさういふやうな性質の進出で非常に根強くそこを我物にして同化してしまふといふ力を持つてゐる様に思はれます。

### 三、華僑發展の原因

然らばどうしてかういふ發展を支那人がなし得たかと申しますと色々ありますが、華僑自身の側に於ては、大體二つの原因が考へられると思ひます。一つは支那人の何時でもいはれる非常に強靱な生存力であります。これが根底をなしてゐる。支那人は暢氣で、戦争して敵味方の鐵砲の弾が往き交してゐる中でも平氣で田を耕してゐるといはれてゐます。然しこれは暢氣だからではなく、彼等が如何に生存力に強いが、非常な悪條件の下でも決して自暴自棄を起さぬ、孔々營々として働く一つの現れであります。支那は悪政を布いてゐるといはれてゐますが、その悪政に對しても彼等は決して自暴自棄になつてゐません。日本人ならば到底我慢が出来ないが、彼等はさういふ悪い條件の下でも孔々營々として生活して、その年に播く種は播いて行く、殆ど周圍に無感覺のやうに自分の仕事をして行く、それ位強い生存力を持つてゐる。最近のシンガポールからの新聞通信を見ましても、シンガポールで戦後、先づ誰が一番に起ち上つたかといふと華僑であつて、華僑が既に復興の營みを始めたといふ通信が出てゐることは御承知でありませう。これ位強い生存力を持つてゐるのであります。尙この強い生存力を私が自ら見た例を申し上げます。會つて今から約二十年ばかり前のことではありますが、山東省で張宗昌といふ非常に荒武者な將軍がをつて虐政を布いて苛斂誅求をしたので遂に山東省の支那人はぞくぞく海を渡つて滿洲に流れ込んで來た。この移民は一年約二十萬人に達してゐ

ます。二十萬人といふと當時三十年かゝつて這入つた日本人の數と匹敵してゐる。これが僅か一年の間に入つて來たのですが、彼等は何所へ行つたかといふと主として北滿の方へ入つたのであります。その狀況をたま／＼私は北滿を旅行してゐて見たのであります。二頭、三頭の馬車に家財道具や、犬から鶏、豚一切を載せて行く、それが恰度二月、三月頃であります。まだ零下何度といふ寒い時であります。さうして馬車には女、子供が箆箆、長持の間に毛布を覆つてちぢかんでゐる。それを二頭乃至三頭位の馬に挽かせて蜿蜒として北へ上つて行く、雪の野原一線黒くなつて、目のとゞく限り數千の馬車隊が北へ北へと上つて行く、さうして彼等は勿論さういふ曠野であるから宿屋もなく夜になるとその道で野宿する、然もそれは政府の保護でも獎勵でもない。只、自らの生活を求めて蜿蜒として北上して來るのであります。その狀況は丁度アメリカ邊りの映畫に見るゴールドラッシュか西部への大集團移民といふやうな狀況を呈してゐる。私は此れを見て非常に支那人の生活力の旺盛なのに打たれたであります。かやうに支那人は、悪政が行はるれば黙つて之を避けて自分で何處かへ轉々と生きる道を見付けて行く、斯ういふ強靱な生存力を持つてゐる。この生存力が土臺となつて彼等は發展して來たのであります。それに加へましてもう一つ支那人の特長とするところは團結力であります。日本人は支那人の團結力といふものに對して考へ違ひをしてゐるのであります。支那人は利己的で團結力がないといふことをよくいひますが、それは國家的に見ましたならば團結力がないのであります。此れは支那の社會制度が氏族制度といふものを中心としてゐる即ち、血族關係を國家以上に見ることから來て居ります。支那人同志の交渉でも血族以外の者は極端に云へば之を狼と見る、相互に餘り信用せぬといふやうな狀況である。之を外から一寸見ると、非常に個人主義のやうに見えますけれども、その血族間の團結心といふものは非常に強い。彼等血



族の間には犠牲心もあれば皆のために奉公しようといふ無我の奉仕心も持つてゐる。それからもう一つは郷黨の觀念が非常に強い。同郷から出てゐる者は互ひに團結して扶け合つて行くといふ強い團結力を持つてゐる。この血縁——血の關係と、地縁——出身地によつて團結しお互ひに扶け合つて行くといふ強い習慣を持つてゐるのであります。彼等が南洋に行つて先づ頼つて行くのは親類か知人であります。現地で仕事をするにはその外に同郷會館を中心にする。同郷會館といふと、日本人はこれを縣人會みたいにかへるかも知れませんがそんなものではない。同族や出身地方の人が集つてさうして互ひに扶け合ふ、精神的にも物質的にも扶け合ふ、そして他地方のものから同郷人の共通利益を守る。又故郷に何事か天災が起れば皆金を集めて、故郷の救濟事業もやる。公共社會事業、學校等もやるといふやうな強い力を持つてゐるのであります。斯うした同郷會館を根據にして、華僑はどん／＼發展して行くのであります。日本人は海外に出稼ぎしても互ひに團結心がないのであります。日本國民として國旗の下に團結することは比類もありませんが、日常經濟生活に於てはお互ひの相互扶助を行ふ斯うした機關を持つてゐない。此の點は支那人に劣つてゐるのではないかと思ひます。かうして、まあ相互扶助と團結心の上に立つてゐますから、克く土着人を制しまして今日のやうな經濟的基礎を築き得たものと考へるのであります。

#### 四、華 僑 資 本

以上大體華僑の今日に至りましたところの歴史とその原因といふものを申上げましたが、今度は今までよく問題にされてゐる經濟關係がどうなつてゐるかといふことをお話申上げます。先づ華僑の資本についてお話しします。

今次日支事變は次第に南へ伸びて、我方は廣東を取り、汕頭を取り、厦門を取り、と云ふ具合に華僑出身地をどん／＼手に入れました。そして此等の土地を取つて見ると、華僑の經濟力が非常に強い。厦門など殆んど華僑の力によつて近代的都市が出来上つてゐる。經濟の中樞が華僑經濟に依存してゐる送金だけでも年額で二三億には達してゐる。この大きな華僑經濟を利用して、日本に協力させ新支那の建設に參與させたい。かういふことから先づ華僑の資本利用といふことが考へられました。然しこれは華僑についての非常に素朴な考へでありまして、華僑の資本といふものは決してさう簡單なものではないのであります。何故ならば華僑と申しますと、これは歐洲資本主義の植民地に住んでゐる。従つて彼等の社會は歐洲人なみの社會であらうといふふうにかへられますけれども、彼等は歐洲人の社會に住んでをりますけれども彼等自身の持つてゐるのは支那の社會であります。従つて資本といふものは支那的な性格を持つてゐる。而も商業資本であつて、近代的、所謂産業資本ではないのであります。産業資本は未だ弱い萌芽的存在程度にしか過ぎない。その商業資本さへ未だ近代化してゐないのであります。斯う申しますと華僑のうちでもゴム園を經營してゐるものもある。それから精米所は殆んど華僑の手にある位だ。だから産業資本があるではないか、と疑問を持つ人がありますが、私考へますに、そのゴム園にしましてもこれはその精神基調にいたりましては決して産業資本ではないのであります。華僑のゴム園に投資したのは、ゴム園を商品として賣らうとしたからであります。と申しますのは英國がマレーでゴムの栽培事業を奨勵した。その時安い土地をどん／＼拂下げたので、華僑はこの拂下げを受けて零碎な金でゴム苗を買つて植へる。さうすると二、三年たつとゴム園の値段が出る。そこでゴム園を賣飛ばす。さうして賣つた金で更に大きな面積の拂下げを受けて、また二、三年たつと賣飛ばすといふやうなことで、ゴム園を産業的に經營して行かうといふ考へがあつてのことではありません。ゴム園を一種の商品として取扱つてゐ

るのであります。従つてゴムの生産過剩問題からゴム園適地の拂下げが停止されると、華僑のゴム園經營は大打撃を受けたのであります。

それから精米所に至りましたは、これは殆んど華僑の獨占的事業でありますけれども、これは華僑が持つてゐる米を集める蒐貨組織が、華僑の獨占になつてゐるといふことと、米の輸出先が大體華僑圈内、即佛印、泰から出ます米の輸出先はジャバアからシンガポール方面であつたり、南支であつたりするためであります。従つて他の外國人では一寸手が出せぬといふやうな特殊の事情から、精米所は殆んど華僑の手に入つてゐるのではないか、と考へます。従つて、大體歐洲向とか、印度向といふふうに出されてゐるビルマにおける精米所では華僑が獨占出來てゐるかといふとさうはいけません、ここにおける大規模な精米業は大體英國人、印度人の手にあるのを見ましても此の間の理由が分る。即ち華僑はゴム園とか精米所とかに投資してをりますけれども、それは特殊の関係からである。何も産業資本として優勢な爲ではない。即ち斯くて彼等の資本は大體高利貸商業資本といつて差支へないのであります。

それでは、華僑の支配下にある華僑の商業高利貸資本の性格は、どんな性格を持つてゐるかと申しますと、さつき申しました支那的性格であります。即第一地縁的關係が非常に深いといふことであります。同一地方出身者が互に結合して行かうといふ發展の仕方でありますから、その資本は土地に結びついてゐるのであります。従つて、例へば華僑が投資しやうといつても、自分の出身地には投資する、福建華僑なら福建には投資するが、他の土地には投資しない而も福建人同志なら協力して行くが廣東人とは犬猿の間柄だ、といふ傾向を持つてゐる。これについて二つの實例をあげることが出来る。一つは支那の財政の神様といはれる宋子文が海南島の開發を計畫したことがありました。彼は

華僑の資本でこの海南島の開發をしやうとしたのであります。それで福建省邊りから相當華僑が見學に出かけて來たのであります。しかし彼等は歸つて來て海南島には投資出來ない。海南島人は大體排他的であるのに、あゝいふ親戚も、知人もないところに投資してどうなるか不安でならないといふので投資しなかつたのであります。それで宋子文のこの計畫も畫餅に歸すをいふことになつた。もう一つはこれは最近の例でありますが、かの蔣政權は敗れて重慶に逃げ込んでから、海岸は全面的に封鎖されて了つた。抗戰の基地として西南地方一帯を開發せねばならぬといふ問題が起つた。併し沿岸地方の經濟地盤を喪失して了つてゐる重慶政權の頼るべき開發資本といふものは華僑資本だけしか残つてゐないのであります。だから華僑の經濟力によつて西南地方を開發しようといふ計畫を建てたのであります。さうして盛んに華僑に呼びかけた。華僑もこれに相呼應した。華僑は抗戰以來約十億に近い金を獻金してゐるのであります。財力の問題もありませんが、日本の海外居留民の獻金に比しても之は大變な額である。それでありますから、華僑は定めし喜んで重慶の西南開發に呼應したであらうと思はれますけれどもさうではなかつた。殆んど一人として投資する者はなかつた。何故かといふと地縁關係からして、自分達と關係のない土地、同郷人の居ない土地に投資することは華僑としては非常に不安である。それは金をドブに捨てるか狼に肉を呉れてやると同一結果になると考へてどうしても投資しないのであります。もう一つは血縁的結合であります。華僑は先程から申す通り家族を中心にした氏族社會でありますから、氏族以外の者とは仕事をしない。家族以外の者は安心して使用出來ない。その間には殆んど共屬感情を持たぬ。従つて他人との間の社會的結合といふものは非常に薄いのであります。で、南洋で事業を致しますにも自分と地縁關係があるか、又は血縁關係がなければなか／＼仕事が出来ない傾向を持つてゐる。かう

いふ地縁、血縁關係の線に沿ふて華僑經濟は動き、華僑は結合されてゐる。従つて其の團結心は頗る強い。之が華僑の發展上相互扶助として大きな力となつてゐることは前に申し上げた通りである。併し此は又逆作用となる點をも持つてゐる。即ち斯うした社會では結局血族各同郷者以外には人も資本を使へないために經濟の發展も自ら此に傳はれて或る限度があるといふことになりす。それで華僑は大きな資力と經濟力を持ちながら海外的、國際的に發展してゐないのであります。何故國際的に發展出来ないかといふと、大きな商業をやるには澤山の人材が要るのであるが同族關係ばかりからさういふ人材は得られない。だから仕事は出来ないといふ結果になります。それで彼等は國際的發展例へば大阪とか、神戸とか、上海とか、米國とか、英國とかに店を出して、商賣が出来ない。同じ瓜哇なら瓜哇に住んでをつても局地的仕事しか出来ない。若し血縁者が少い場合には同郷人でも使はねばなりません。血縁者程信用出来ない。従つて監督が必要である。従つて監督の目とどく範圍内では仕事が出来ない。だから大きな資本を持つてゐるやうでありますけれども其の活動範圍は案外狭いのであります。

斯うした關係は當然その投資の配分にも表はれて來るのであります。即彼等の投資といふものがどんなになつてゐるかといふと、恐らく商業資本として運用されてゐる金は、金持と雖も三百萬圓は越してゐないと思ふ。一千萬圓の金持も残りの七百萬圓は多くは不動産に投資されてゐる。不動産といふものは比較的管理がし易いから不動産に投資されて、實際動かしてゐる金は二三百萬圓に過ぎないのではないかと思ひます。

華僑資本は大體以上の様な性格を持つてゐますが、そんなら此は日本側が最初考へてゐた華僑資本利用と如何な關係になつて來るか自ら判るのであります。即ち華僑資本と日本とは血縁的關係がない。又地縁的關係もないのであ

ります。滿洲や北支に投資させることが如何に困難かは説明を要しません。

それでは現在南洋に於て外國資本と華僑資本がどういふ關係になつてゐるか、佛印の例を見ますと殆んど無關係であります。華僑は華僑で向ふを向いにゐる。フランス人はフランス人で背中を向けてゐる。殆んど何等の關係も持つてをらず、御互の仕事に何れも興味も理解も持つて居りません。華僑に如何して佛國人經營事業に投資せぬか問ふて見ましたら、操縦權を佛人が握つてゐて如何になつてゐるかも判らぬ仕事に協力出来ずかと答へました。此は何れも華僑資本の持つ支那社會の性格から來るのであります。同じ土地の植民地でもさうでありますから、さうでない所では尙一層華僑の資本の利用といふことは困難と思ひます。それから、後でもお話ししますが、日本側がこの華僑の資本を利用出来ないといふもう一つの原因は、利子が高いといふことであります。大體日本では六分とか、八分とかいふ株式の利廻りを持つてをりますけれども、佛印邊りでは概に對する最も信用ある商人同志の間の融資でさへ、一箇月一分といふ高い利子であります。不動産に投資しても、田畑に投資しても年二割位の利廻りになるといつてをります。従つて日本側で意圖するやうな六分とか、八分とかいふ會社に、かういふ高い利子の所得のあるところから廻して持つて來て投資する譯はないのであります。以上大體華僑資本の現在の性格といふことを述べました次第であります。

それでは華僑の資本は何時までも現階級に止つて、大きくなつて日本又は歐洲の資本のやうな近代産業資本に發達しないかといふことについて考へて見ませう。私は、大體において産業資本に發達するについては非常な障壁があると思ふのであります。そんならどういふ困難な事情があるか、第一資本の蓄積が少いといふことであります。斯う申し

ますと、最初私がお話しましたやうに、華僑の全投資は四十億七十億に達してゐる。一千萬圓以上の金持さへ澤山あるのに資本の蓄積が乏しいと云ふのはおかしいのではないかと思はれるが、華僑全體から見ると蓄積が少い。それはどういふ譯からだといふと、さつきもお話した通り二億三億の金が南洋から毎年支那に送られる。現地で儲けた金はすぐに支那に送られるのですから、現地ではそれだけ蓄積が少くなつてゐるのであります。サッキ申上げた利子が高いといふことも、現地の資本蓄積状態を現すものであります。その一番いゝ例は泰でありまして、泰から送られる華僑の金は恐らく年二三千萬バツ位に達してゐると思ひます。日本の金に直して四千萬圓位の金が泰から支那に送られてゐる。それで泰ではかういつてゐる「まるで俺ん所は寄生蟲を持つてゐると同様で身體の營養分は吸収されて行く、泰には産業が一つも興らぬ」といつてゐます。かういふ關係で現地資本の蓄積が少いのであります。それからもう一つは、遺産の均分制度であります。地方によつては子供ばかりでなく、妻、妾まで均分に遺産相続が出来るといふことであります。でありますから、例へば百萬圓の金持がいても五人の子供があると、次の時代になると一人で二十萬圓貰ひます。次の時代に又五人の子供があれば更に減つて四萬圓宛になる。資本が蓄積されずにだん／＼分散されるのであります。で、華僑の百萬とか、二百萬とかいふ金持の浮沈といふものは非常に激しい。私が厦門にゐて見聞したところでも、二代、三代と續くのはなかく／＼稀で、金持になつたり、貧乏人になつたり、非常に激しい變動をやつてをります。

第二番目は支那の社會から来る障礙——さつきも申しました資本とか人材を十分に利用出来ない。地縁、血縁的結合關係がなくつては他人をなかく／＼使へないと云ふことであります。即ち他人の資本が遊んでゐても之は使ふことが

出来ぬ。例へば資本家を集めて株式會社を起すといふやうなことは到底望めない。又非常な人材があつてもこれに金を使はせるといふことは親類關係でもなければなかく／＼困難であります。かういふやうに資本も人材も自由に使えずに産業を起すことは困難と云はねばなりません。それからもう一つは植民地政策であります。植民地政策は御存じの通り各國とも本國と競争になる産業の起ることを防ぐ方策でありますから、この方面から来る壓迫もあるのであります。それから第四は、知識經驗に富んだ人材が少いといふことであります。何故かといふと華僑は大部分支那の出稼人即苦力出身者で、これがいろいろな困難に耐へ、粒々辛苦して成上つたもので近代産業を經營する知識經驗はないのであります。従つて自分では産業經營も出来なければ産業を起す爲に適當な人材を求めることも出来ないといふ譯であります。でありますから、華僑には近代的な産業組織は不向だといふことがいへる。彼等は殆んど天下無敵のやうな經濟發展をやりましますけれども、近代的産業については非常な弱點を暴露してをる。それでヨーロッパ資本が未だ南洋に充實してをらぬ時代、單なる土産物を買付けたり、ヨーロッパの製品を南洋に賣つけるといふやうな時代には華僑も大きな力を持つてをつたのですが、現在はだん／＼現地にいろいろな産業が起り、栽培業も近代的に大規模に經營化されたり、その他いろいろな産業が興つて來ますと、華僑の力は相對的にだん／＼弱つて來たのであります。これについてさつき申しました葛といふ男が「華僑の經濟危機」といふことを叫んでをりまして、今の儘では華僑の經濟は大變なことになると云つて、その原因を擧げてをります。その一つは組織問題であつて、個人主義で協力出来ぬといふやうなことをいつてをります。これはさつきの地縁、血縁的關係から出て來る當然なことで、必ずしも單なる個人的性格から出来るものではないのであります。第二は生産販賣の問題、即彼等の取扱ふ商品は全體國際的商品であ

るが、彼等は一地方に小さく踞踏してゐるため國際的取引が出来ず、非常に不利を蒙むるといふことである。これもやはり彼等の地縁、血縁的關係から来る當然の結果であります。第三は資本問題、華僑資本が小さい爲歐洲大資本に敵せぬと云つてゐるが、之は地縁、結縁的關係と資本蓄積不足の兩方面から來てゐる。第四は生産技術が非常に劣等である。これは私の云ふ知識経験ある人材の缺乏といふことになるのであります。第五は資金運用問題で、現地に興すべき事業も資金も相當あるけれども、充分資金の運用が出来ないといふことを云つてゐる。これもやはり支那的社會から來る問題であることは説明を要しませぬ。彼等は遊資があつても結局不動産に投資せねばならぬといふやうな止むを得ない結果であります。斯う説明して來ます葛の説も大體私の考へを現實問題として取上げたもので一致してゐるのであります。彼等は又支那の産業資本が、歐洲の産業資本に次第に壓迫されて來るといふことについて、かういふ統計を擧げてゐます。即ち、ゴムは一千九百十四年華僑の手には六十パーセントあつた。それが一千九百四十年には華僑の手に残つたのは僅かに二十九パーセントで歐洲人は五十パーセントを占むるに至つた、それから錫は一九一四年には歐洲人二十四パーセントのものが一九四〇年には全然反對になつて二十七パーセントしか華僑の手に残らなくなつた。七十三パーセントが歐洲人の手に入つて了つたと云つてゐる。

かういふことを考へて來ますと、私は日本人が重大視がちの華僑資本に對して大した意義を認め得なくなる。

以上種々申上げたことを結論づけますと、華僑資本といふものは、これは利用しやうと思つてもなか／＼困難で利用が出来ない。またこれを其の投資額が大きいからといつて別に心配する程のことではない。ヨーロッパ産業資本にでも敗退しつゝある華僑資本なのであります。

然し、華僑資本は何時迄も斯んな状態に停滯してゐるか云へば左様には云へない。華僑の社會はだん／＼變化して近代化してゐる。本國に於ても支那的社會は崩壊してゐる。即ち今迄申上げた血縁、地縁の關係も漸次變形し支那は近代的國家組織、社會組織になりつゝあるのである。華僑社會でもその影響を受けて當然近代的社會に變化されるのであります。若し華僑の社會が近代式になると彼等の資本は當然地縁、血縁關係を無視して相結合することが出来るやうになるだらうと思ふのであります。現地へ行きましても多少さういふ傾向が現はれてゐる。從來の觀念からでは地縁關係のない廣東、福建人は仲が悪く一緒に仕事することなんか夢想だに出来なかつたのであります。が、最近の仕事の種類によつてはポツ／＼一緒に出資し合つてゐる例もあつてあります。

これはやはり華僑社會の變化の一證據であります。一體華僑社會は如何云ふ原因で、又何處からの影響で近代化して行くものか、これは將來大いに日本側としても注意せねばならぬ點ではないかと考へます。大體支那と華僑との關係といふのは時代の下るに従ひ次第に密接になつて來てをります。事變前においても上海に於ける資本関——浙江財閥といはれます——は次第に南へ伸びて來つゝあつた。さうして廈門、福建省邊りでは一つ産業例へば電燈會社を興し、水道會社を興すことになる。この技師はどこから來るかといふと多く上海から來る。さうしてこゝに近代的産業が漸く興せるのである。通常支那社會に於ては地縁、血縁關係は判然りしてをるから、假令近代産業を興すためにも同地方の出身者を連れて來てやらせるべきだのに上海方面の人材を使ふと云ふのは支那社會から見れば一變革であります。斯くして華僑と上海の接觸が出來ると、華僑も彼等と提携しやうといふ氣分がだん／＼湧て來た。此んな傾向が一層拍車かけられたのは日支事變以後のことでありませぬ。どうしてかういふ傾向になつたかと申しますと、日本

軍の占領地がだん／＼廣くなつて来る。支那の經濟的地盤といふものは殆んど日本の手に入つてしまひ、残つたのは僅かに上海の租界だけになつて来た。だから支那資本が盛んに上海へ流れて来た。支那人にいはせると、その逃避資本は、約五十億位に達したと稱してゐる。この資本は遊ばせて居ても仕様がな、銀行預金しても利子をつけてくれぬ。銀行の中に札が一杯になつてゐる。それで一つは投機事業所謂綿糸布の投機とか、外國爲替の投機とかに使はれ盛んに投機が行はれた。もう一つは生産事業の工業に依はれた。此も支那人の計算だが大小取混ぜ約三百位の工場が上海に出来たと云ふ。然しその結果どうなつたかといふと生産過剰に陥つてしまつた。此の生産過剰は上海工場の販路がどん／＼我軍に占領されて行き、狭くなつたと云ふ側からも来てゐる。さういふ譯で彼等は南洋に目をつけて、南洋へ生産過剰の捌口を見出さうといふことになつたのであります。それから又南京に新しく政權が出来る。他面重慶側は工業の移轉を強制するといふことあり、工場を南に移そうと云ふ氣配になつた。特に香港に移して来たのであります。此は香港が安全な上地理的にも條件が良いばかりでなく、もう一つの原因はオツタワ協定で御承知の通り英國の領土内で生産した品物は英國の領土内に輸出するには特惠取扱を受けるのであります。香港は英國領でありますから、こゝで生産した品物は英國領土——南洋植民地へ持つて行くのに非常に都合が好いといふやうな關係から相當盛んに——でもありませんが、兎に角工場が南下して来たといふやうな状況であります。さういふふう商品ばかりでなく、工場も南へ向つて来たのであります。殊に商品、即貿易關係に於きましては、非常な急カーブをえがいて増加して来るのであります。大體申しすま、一九三六年度には南洋と支那との取引は、輸入一億三千万圓、輸出一億四千万圓位でありましたのが翌年には一億七千万圓の輸入と二億一千万圓の輸出といふやうな額に増へてゐます。以下

輸出だけについて申しますと翌年一九三八年には三億に増えてをる。一九三九年には三億七千万圓に増えてをる。一九四〇年には六億に増えてゐます。僅か五年間に一億四千万から六億に増えてゐます。勿論この中には日本品たる綿糸布も含んでをりますし、爲替の低落といふことも含んでゐます。然し此を考慮に入れますも、かういふ急カーブを描いて支那と南洋との取引が密接になるといふことは非常に注目すべきことである。假令それが日本品であるにせよ、支那品であるにせよ、支那から南洋へ盛んに向けられ、支那との接觸が従来より一層密接になりつゝあるといふことは非常に注目すべき點であります。従ひまして、當然此の状態に應じて上海邊の人間も相當南下してをると想像せられます。特に金融關係においては交通銀行とか、中國銀行等が南洋に進出して未だ貸出しには活動してをりませんけれども、預金の吸収とか、送金には非常に活動してをる。斯くて支那本國資本と華僑との接觸が進められて來てゐるのであります。華僑と支那本國資本の接近の結果、上海で得た新しい知識經驗は直ちに南洋に利用されるのでありますから、華僑の産業の發達即ち従来と質の違つた近代的産業への轉換も此の方面から來つゝあるのであります。現在では支那と華僑は經濟上からいつても殆んど切離すことが出来ない關係であります。

それから、もう一つ支那勢力の南下について注意すべきことは、支那人でも南へ行くと氣候が暑いために大體退化します、でありますから華僑全體の活動力を維持する爲には不斷に新しい人材と新しい血が華僑の中に流れねばなりません。即ち年々南洋に出て行くおびたゞしい支那人が此の役を勤めてゐるのであります。此のことは常に排日運動の第一線に立つてゐるのが、第一世で第二世ではないこと又、經濟面においても最も活動するのは第一世であることから判るのであります。即ち華僑の指導層、中樞が常に第一世であると云ふことは支那における社會進化を華僑社會

に其體鋭敏に反映して來る結果となります。而して現在支那社會は變化しつつあります。漸次近代化しつつありますから華僑社會で何時かは近代社會になるであらうませう。南洋の華僑經濟、社會狀態が變ると彼等の資本の性格は當然變つて參ります。従つて支那と華僑といふことを離しては考へられないのであります。この點は今後非常に注意すべきことだと思ひます。

### 五、華僑經濟機構

次に經濟機構の問題であります。資本については私は恐るゝに足らんと申上げましたが、この經濟機構についてはこれは非常に重要視しなくてはならないと思ふのであります。それでは此の經濟機構がどんなふうになつてゐるかと思ふと、さつきお話ししました通り華僑はどんな田舎に至るまで入り込んでゐる。田舎の山間僻地でどういふ仕事をやつてゐるかといふと皆商店を開いてゐる。商店は小さい小賣商店であります。彼等は土語を習ひ、その習慣を知り殆んどその土人の生活の中へ融け込んでゐる。なかには土人の妻を持つてゐる者もあり、従つて彼等は土人の習慣、信用狀態等を最もよく知つてゐる。そして、その土地において農業に従事してゐる土人に掛賣をやる。その掛賣も出來秋の收穫物を見當に掛賣をやる。その際の收穫物の値をウンと安く見積つて返濟契約をやる。土人は目前の苦しきから逃れ度いばかりに先のことは考へず皆華僑から掛賣をするのです。そして之等の小賣店がどうして商品を入れるかといふと卸商から仕入れる。その關係はどうなつてゐるかといふと、さつき資本の時申しましたやうに、大體地縁、血縁關係で結ばれてゐる。それは此の關係に立つてゐると取引上御互に一番信用が出来るからであります。信用取引も安心して出来るからであります。而して此の卸商と中央の間屋はどんな關係になつてゐるかといふと、こ

れも同様な關係の上に立つてゐます。且その間屋が外國貿易商人から品物を仕入れるにはどうなつてゐるかと思へば外國商社には支那人の買辦がゐて、これがやはり自分の信用してゐる同族なり同郷の人間に主として取引するといふことでありまして、殆んど上から下へ一直線の取引關係が出來、而もその最尖端では土人の經濟組織の中へ解け込んでゐる。大體斯んな共同體的な封鎖的な配給網が出來てをります。でありますから、これに對して日本人が土人に直接品物を賣捌かうといふことが出来るかといふと、殆んど不可能であらうと思ひます。華僑自體が土人の生活をしてをる。日本人としてさういふ生活は耐へられぬ點から殆んど不可能ではないかと思ふ。それでは土人をしてこれとつて代らさうとしても土人の經濟思想からこれは出來ない。そんなら華僑の小賣商なり卸商と日本人が取引しやうとすれば如何なるかと思ひますれば、此は或程度迄出來る。然し欺かれる機會が非常に多い。此は地縁、血縁のないものに對する支那社會の態度でありまして已むを得ない。南洋では日本人ばかりでなく外國人貿易商が屢々華僑からヒドイ目に會つてゐます。だから國內の配給機構が大體華僑に獨占された。かういふ配給機構が出來てしまつてゐるかこれと太刀打することは到底望めない。土人だけやない日本人でも望めない。外國人も望めない。従つて最近支那人が民族意識を持つて來て日本品を排斥すればどうなるか、日本品を賣らないといふことになると二進も三進も日本人は手が出せない。斯う云ふ關係から華僑の排日問題は非常に注目を惹かれるやうになつた。今日ジャヴァみたいなどころでは直接華僑が排日貨をすれば直接日本人が土人に賣捌くといふ手もあるけれども、これも今までの日本商人の力では限りがあつて、多量に日本品を賣捌くといふことは困難で、どうしても華僑の配給網を利用せねば行かぬといふことになつてをりました。

それから、今度は品物を買ふ即ち買貨はどうなつてゐるか。丁度これは配給の逆様であつて、最も尖端に居る華僑が粗なら粗を賣掛代金として安く取上げる。それを仲買人に賣る。こゝにもやはり地縁、血縁の關係があり、資金關係があり有機的結合を形成してゐる。さうして集つた貨物は華僑の經營してゐる運送業者に持寄つてどん／＼都市へ送られて來るのでありますから、彼等の手を経ないでは、どうしても品物が集つて來ないといふやうな具合であります。従ひましてさつきお話しした華僑の精米業にしてもかういふ下部組織を持つてゐる。この大東亞戦争が勃發致します前に、日本が食米不足からいろ／＼苦勞して泰から米を買はうとしましたが、華僑が日本に賣ることに反對した爲日本は大變苦しんだと云ふ最近の經驗を持つてゐます。兎に角華僑が物を賣らぬといつても困るし、我が製品の販賣をやらぬといつても困るのであります。この配給と集荷の流通面におけるところの華僑の力といふものは非常に絶大なものであつて、これは恐らく他の者では一寸どうにもならないと思ふのであります。つまり華僑の斯うした獨占的組織があるといふことは、結局流通面を華僑に握られて日本としては非常に困るのであります。併し一面から考へて見ますと、これは華僑が民族的に動くからであつて、若し左様でなく配給なり、集荷なりの上に日本の欲する儘に其の機能を發揮してくれれば、日本にとつては何等異議はないことであります。問題は全然經濟問題でなくて政治問題であります。又華僑から見ましても日本品を取扱ふのが一番有利なのでありますから、經濟的利益の見地からは別に日本品を排斥せねばならぬ必然性はありません。全然政治的見地から動いてゐるのであります。で、經濟部面から見ると日本と華僑と衝突するといふことは餘り考へられない。現在日本側には華僑經濟に對する様々な議論と意見があるやうですが、其の根柢は矢張り政治的のものだと私は考へます。純粹な經濟的考慮からは日本と華僑は相互

に協力が出來ると考へるものであります。此點華僑としても充分な反省と自覺をなさねばならぬ。若し華僑が今迄の態度を續ける限り、又其の精神を入れ替へざる限り、そして政治的に動く限り種々の政治的壓迫を被るべきは當然であります。で、日本の立場からすれば兎に角一應經濟問題に關する限り華僑のこの機構を尊重して十分利用してやらないてはならない。況んや現在戦禍が漸く收つて經濟回復が一日も速かなることを必要とする時代であります。出來る丈け無益な摩擦を避けて華僑のかうした機能は十分尊重してやるのが日本としても得であらう。かう考へるのであります。

## 六、華僑 政治文化

經濟問題はその位に致しまして、時間がだん／＼なくなりますから次に文化問題について簡單にお話致します。これは恐らく今後の華僑問題の中核をなすものと私は考へるのであります。

支那に「華僑は革命の母なり」といふ言葉があります。支那の革命をして成功させた者は華僑であります。これは何故かと考へてみますと、支那人は元來國家意識を持たなかつた。又民族意識も持たなかつた。それが歐洲の民族資本主義に接觸してから最近は次第に民族意識を持つやうになつて來たのであります。ところがヨーロッパの民族資本主義に最初に接觸した支那人は誰かといふと華僑であります。華僑は歐洲の産業革命が確立する迄は南洋で殆んど王者の如き經濟地位を占めてゐた(尤も政治的には大變な弱點を持つてゐて結局歐洲人に壓迫された)。彼等の文化の程度は假令出稼人苦力と雖も土人よりは遙かに高つたのであります。歐洲人と雖も産業革命前は必しも支那文化に優つてはゐなかつた。ところが産業革命後民族資本主義が興りまして、歐洲の地位がグンと上つた。此の勃興して來る力



と支那人中一番始めに接觸したものは華僑であつた。そして華僑は歐洲勢力にぐん／＼押された。最初の間は歐洲人は、華僑の從來の社會的地位も認めてゐたが次第に之を押し下げて土人並に扱ふやうになつた。華僑は經濟から云へば決して歐洲人にも劣らないのに劣等民族扱ひにされるのは不満でたまらない。斯うした處から彼等は強い民族的感情を持つやうになつたのです。然し何を申しても出稼人のことですから政治的教養もなければ、さうした訓練もありませんから、この民族的感情を組織化するまでには至らなかつたのであります。然し彼等のかうした強い民族感情は社會的地位が下れば下る程強くなつて行つた。華僑の次に此の西歐民族主義に接したのは南支の支那人であります。茲に支那の國民革命發生地が南支である原因があると考へられます。兎に角斯う云ふ譯で華僑は支那人中でも最も早く民族感情を持つたと思はれます。そして誰がこの一般華僑が持つてゐる民族感情に最初に火を點じたかといふと、それは康有爲といふ人であります。康有爲は立憲君主制を主張して清朝に逐はれ日本に亡命し、更にシンガポールに渡りました。さうしてここで保皇黨といふのを組織して華僑全體に文化運動、政治運動を起し、支那の文化は尊ぶべきものだ。我々の民族は尊ぶべきものだ。さうして我々は立憲君主制を布いて支那を強盛にせねばならぬといふ説を盛んに説いたのであります。彼の斯うした主張は民族的感情を持つてゐる華僑の間に、殆んど渴き切つた砂の中に浸み込む水のやうに、浸み込んで行つたのであります。従つて此の運動は、丁度燎原の火の如く擴かつた。その頃に来ましたのが所謂孫文一派の激烈な民族革命運動で清朝を倒して、さうして漢人の天下を作るといふ今の國民黨一派であります。彼等もシンガポールへやつて来てこゝで民族運動をやつたのであります。然しこれは保皇黨運動とは相反して保皇黨の地盤が出来上つてゐた關係で、先づ彼等と地盤争奪戦をして行かなくてはならなかつた。こゝで保皇黨と國民

黨の間に激烈な論争が展開した。このために始めて新聞らしい漢字紙も發行されるやうになりそして兩派の論争を通じて華僑にだん／＼政治意識と關心を注ぎ込んで行つた。而してこの運動に従事した者は誰かといふと皆支那の青年であつた。當時孫文の股肱、左右の腕といはれてをつた汪精衛、胡漢民もシンガポールに行き盛んに活動し、紙上に筆陣を張つたのであります。當時彼等の年齢はどの位であつたかといふと皆二十歳代の青年であります。現代支那を支配してゐるのは青年であります。青年層が南洋に出掛けたことは大變注目すべきことであります。

## 「註」

支那には讀書人と稱する階層がある。之は支那社會（官僚封建制）に於ける官僚の母體をなしてゐる。彼等は前清末迄は科擧の制に依り官場への出路を與へられてゐた。假令科擧の試験に合格出来ぬにしても官僚の大きな社會的勢力に依り生活の安定は得られてゐた。併し前清末年團匪事件により此の科擧の制は廢止せられ、讀書人階級の出路は閉鎖された。そして讀書人の後身は新式學校に依り教育されることになつた。併し社會は清朝時代より一層讀書人にとり悪化し其處には軍閥專制（而も地縁、血縁關係で固つた）が支配的で單に學問が出来、學校を出た丈では一片のパンにさへありつけなかつた。學校卒業者中の僅かのものが文化界（新聞、雜誌、教員）に其の活路を求め得たに過ぎず、大部分のものは深刻な生活苦に悶んだ。支那青年の此の生活苦を理解せずに彼等の九十%が共産主義傾向を持つと云ふ言葉は理解出来ない。

彼等青年學生は當然現状打破の勢力に成長して行つた。況んや彼等は讀書人の後身階層としての歴史的な社會勢力をも有してゐた。それに彼等の受けた教育は近代國家を作る教育で、明に從來の支那社會とは相容れぬもの

であつた。彼等は讀書人の後身たる特性を發揮して、在學時代から政治運動を行つた。學校は小政治家の社會であつた。彼等が舊社會秩序の批判的勢力となつたのは當然と言はねばならぬ。國民革命は彼等青年の上に立つて初めて成功した。(國民革命成功後學生風潮の衰退は此の關係を示す) 斯くて青年の上に立つ國家が樹立される。と當然舊支那官僚は没落して行つた。支那では此の青年と老官僚との間に越へることの出来ない大きな斷層が出来てゐる。従つて老官僚(遺老)と青年とは烈しく嫌惡し合つてゐる。併し老官僚は最早民衆を引率する政治力は少しも持つてゐない。是は青年の手中に歸してゐる。新しい支那の動きは此の青年の動きを見なければならぬ。斯様な性格を持つ青年が南洋に下つて行つたのである。

而して彼等が程度の低い華僑の中で政治運動、民族運動のリーダーとなつたのは當然と云はねばなりません。従ひましてこれ以來といふものは、華僑の動きが全然一變して來た。從來どうしてかういふ華僑の大發展を各國殖民政府が許したかといふに、いろ／＼事情があるけれども、一つは華僑は政治問題を起さぬ、黙つて、黙々として働いてくれる。さうして歐洲人に出来ない機能を發揮してくれるといふ譯で、默認してをたつたのであります。ところが彼等はさうではなくなつたのであります。民族的動きを示すやうになつた。華僑の性質が一變して來たのであります。これ以來といふものは、華僑の動向は支那と脈絡を通じ、一體の動きを示して來た。支那に排外運動が起ると南洋にも起る。例へば歐洲戦後民族問題が世界的に高潮して、支那でも講和會議に對しまして反對運動が起つたのであります。この時南洋華僑中にも反對運動が起つたのであります。而して英國の牙城たるシンガポールにもその運動が起つた。そして英國の主權する祝賀會をボイコットした。英國の治下でさへかういふ事情であります。又北伐當時蔣介

石軍は先づ排英を旗印に押立てて、長江に攻め上つたのであります。この時にもシンガポールに排英運動が起つて英國官憲が殆んど手のつけやうがないといふやうな位になつたのであります。滿洲事變、支那事變等支那に何か排日が始ると、南洋でも必ず排日が始る。即ちこのことは支那華僑が既に從來の華僑ではなくて、彼等は支那民族としての一體感を持つて動くといふことであります。華僑は利害關係で動くんだと云ふ考へからは此の動きは理解出来ない。これは非常に注意すべきことであります。そしてこれは單に政治問題ばかりではなくて、文化方面にもそれが現はれてをるのであります。最初移住した支那人は、ジャヴァ邊りでは殆んど皆マレー語を使つてゐた。自分達同志此の往復文書もマレー語を使つてゐるといふやうな有様でありました。ところが彼等の民族的意識が盛んになるとともに、學校をつくつて支那文化を普及しようとした。さうしてマレー語をなすだけ使はず支那語、支那文を使ふやうになつた。それには子弟を教育する學校が必要となつた。併し苦力の出稼人ばかりで先生もろくすつば集らないといふやうな状態で、人口の八十パーセントは華僑であるといふシンガポールに初めて學校をつくつた時の話ですが、その時先生になれる人は僅か二人か三人しか見出せなかつた。而も此の人達も差支があり先生になれなかつたから、支那本國から先生を呼んで來た。此の支那から先生を雇つて來たといふことは非常に重要な問題でありまして、誰が來るかといふと皆支那の新しい教育を受けた青年が來る。此れは舊い人では新式教育が出來ぬからです。さうして華僑學校で教へるのは民族主義の思想であります。又この民族意識が發展しますに従ひまして、學校なんかも急速に増えて行つた。例を申しますと、マレーには革命以前僅か二十餘校しかなかつた。それが革命に成功して十年たつた時は三百餘校に増えてをた。殆んど十倍以上に達してゐるやうな膨脹振りであります。その經費の如きは皆國家の補助である

かといふとさうではありません。皆華僑自身が負擔するのであります。勿論設備なんか不完全を免かれませんが、従来の教育に比べると格段の進歩であります。この點について前南洋局長である齋藤さんが、南洋の經驗に付て斯んなことを云つてゐられた。日本人は小學校をつくるにも經費が澤山入る勢もあるが、補助金をくれとか、先生を世話してくれとか非常に政府を當てにしたがるが然し華僑は黙つて自分の力で學校をつくつて行く、といふやうなことを言つてをられました。さういふやうに自費をもつて學校をつくつて行くのであります。それから此の學校も最初の間は福建人は福建語で福建子弟にだけ教育をやつてをる。廣東人は廣東語で廣東の子弟にだけ教育する。所謂地縁的關係で別々にやつてをつたのであります。最近になりましたは各地方とも皆國語即標準語の北京語を教へてゐる。さうしてその學校に通ふ人間は熱心に北京語を勉強する。私は或る福建人の經營してゐる學校へ行つて見ましたけれどもそこでも標準語で講義をしてをりました。そこで今日では教育をする上からは最早福建人廣東人が別々に學校を建てる必要はなくなつて、次第に統合の傾を示して來た。斯様に現在の支那文化といふものはその儘華僑に反映してその文化面に現はれる。即ち華僑は既に民族的一體感を持ち、文化面に於ても民族的色彩を日にまし濃くして來てゐる。そして従来の華僑の性質を一變して民族的に動いてをるのが現状であります。

### 七、各國の對華僑政策

華僑がかういふ民族的な動をするやうになりましたので、各國も非常に慌てて來たのであります。而して華僑取締華僑對策といふものが始めて問題になつたのであつて、各國とも入國を制限するとか、反抗分子を追放するとかいふことを盛んにやるやうになつた。大體民族思想なり共產思想なり其他新しい思想や政治問題を南洋にもたらすものは

常に華僑第一世であります。そして從來第二世、第三世として殆んど、土着して了つてゐた華僑の民族意識迄も覺醒して來る。さうすると土人もこれに煽られて民族運動を起すといふやうな状況で非常に各國とも驚いてをります。佛印邊りでも最初は自由、博愛、平等といふ、所謂フランス流の革命思想からして孫文の革命運動に同情的態度を示し支那の革命は佛印を根據地にして、佛印から支那本土に働きかけたのであります。處が其の結果は安南人もそれに感染致しまして、獨立運動を起すといふやうなことになつたので非常に慌てまして華僑の取締りをやり、さういふ獨立運動を禁止したといふやうなことがあります。その他新しい思想運動に致しましても、共產主義の思想といふやうなものは皆支那から來る新しい青年によつて、華僑および土人の中にバラ撒かれてをるのであります。であるからこれを取除かねばならぬ。最も寛容な、支那人に對しては殆んど放任主義をとつてをりました英領マレーにおいても入國制限といふやうなことが行はれるやうになつたのであります。さうしていろんな不良分子の追放をやつた。その例を見ますと一九一八年——一九二一年に約八百人追放してゐる。一九二八——一九三一年には倍の一千五百人追放されてゐる。その追放は年々増加して、大東亞戰爭勃發以前にはモット澤山追放されてゐます。歐洲大戰が勃發致しましてロシアがドイツと協定を結んだことがあります。その當時マレーの共產黨は凡て反英運動に矛を轉じたのであります。支那事變以來、支那本土に於て國共合作が行はれますや、マレーでも國共合作、國民黨と共產黨が同一抗日戰線を張つてゐた。そこへドイツとソ聯が手を結んだので一時此の戰線に龜裂を生じ、共產黨は國民黨の英米依存に反對し、英國に利用されるなといふやうな共產主義思想から、シンガポールでストライキを起したり、衝突事件を起したりして非常に英國官憲を慌てさせたのであります。その當時も大多數の華僑が捕りまして國外に追放されたのであり

ます。さういふ譯で英國も遅延しながら華僑教育といふことに注意して、華僑の教育を放任して置けないといふことから、だん／＼いろんな取締りを加へるといふことになつてまゐつたのであります。そのことは單に英國ばかりでなく最も國力に自信ある英國が然りでありますから、その國力に自信のない和蘭とか、泰とかに至つては申すまでもないのであります。いろ／＼な制限を加へて華僑の力を殺がうとしたのであります。然し現在のところから見ますと其の結果は單に華僑の現状以上の發展を阻止するといふことに止まりまして、彼等の力を殺ぐといふことには殆んど不可能な状態であります。

〔註〕

斯うした華僑の民族運動から直ちに小民族問題を聯想してはならぬ。支那民族の政治結合の脆弱さは現在も依然として存続してゐて、彼等の政治運動を消極的、受身的のものたらしめてゐる外部よりの刺激には敏感且激烈に反應するが平常に於ては殆ど無關心の態度にさへ見える。此の點からして彼等の政治運動を輕視することは大きな誤りであるが、又其の民族意識を以て直ちに我々の有する國民意識に迄對比せしめて考へるのは現状に即せぬ。

甚だ簡單であります。これを以て終ります。



昭和十七年十一月二十八日印刷  
昭和十七年十二月一日發行

編輯兼發行所 名古屋市中區大池町四丁目一番地  
名古屋商工會議所  
奥野平

印刷人 名古屋市中區千早町五丁目十六番地  
中尾五

印刷所 (中愛六) 株式會社 一  
名古屋市中區大池町四丁目

發行所 名古屋商工

(會員番號二二二)  
電話中③代表一一八一番  
撫替 名古屋 五〇〇番

44-44

